
部局 大学院医学研究科

講座 外科系講座 産科婦人科学分野

氏 名 寺 井 義 人

国 籍 日本

学 歴	年 月 日	事 項
	1986 年 4 月 1 日	福井大学医学部 入学
	1992 年 3 月 31 日	福井大学医学部卒業
	1997 年 4 月 1 日	大阪医科大学大学院医学研究科博士課程 (産婦人科専攻) 入学
	2001 年 3 月 31 日	同課程所定の単位を取得
学 位	年 月 日	事 項
	2001 年 7 月 25 日	博士 (医学) (大阪医科大学)
免 許	年 月 日	事 項
	1992 年 5 月 27 日	医師免許
認定医等	年 月 日	事 項
	1997 年 10 月 1 日	日本産科婦人科学会専門医
	1997 年 12 月 5 日	日本臨床細胞学会細胞専門医
	2006 年 5 月 1 日	日本婦人科腫瘍学会専門医
	2006 年 8 月 4 日	日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医
	2006 年 9 月 1 日	日本がん治療認定医
	2011 年 1 月 1 日	日本内視鏡外科学会技術認定医
	2015 年 4 月 1 日	日本臨床細胞学会教育研修指導医
	2015 年 8 月 1 日	日本産科婦人科学会指導医
	2015 年 12 月 5 日	日本婦人科腫瘍学会専門医制度婦人科腫瘍指導医
	2020 年 10 月 1 日	日本婦人科ロボット手術学会ダヴィンチプロクター
	2022 年 12 月 27 日	日本婦人科ロボット手術学会 Hinotori ファーストイン ストラクター、プロクター
	2020 年 10 月 1 日	日本女性医学会女性ヘルスケア専門医
	2022 年 9 月 1 日	日本女性医学会女性ヘルスケア指導医

職 歴	年 月 日	事 項
	1992 年 6 月 1 日	大阪医科大学附属病院臨床研修開始
	1994 年 6 月 1 日	大阪医科大学 (専攻医一産婦人科学)
	1994 年 6 月 16 日	大阪医科大学 (助手一産婦人科学)
	1998 年 4 月 1 日	国内留学 (東北大学加齢医学研究所腫瘍循環研究分野)
	2001 年 4 月 1 日	大阪医科大学産婦人科学教室助手に復職
	2002 年 7 月 1 日	出向 (枚方市民病院一産婦人科学)
	2002 年 12 月 16 日	大阪医科大学産婦人科学教室助手に復職
	2003 年 3 月 1 日	大阪医科大学学内講師 (産婦人科学教室)
	2004 年 10 月 1 日	国外留学 (米国コロラド州立大学病理学教室)
	2005 年 9 月 30 日	国外留学終了 (同上)
	2005 年 10 月 1 日	大阪医科大学 学内講師 (産婦人科学) 復職
	2006 年 4 月 1 日	大阪医科大学附属病院婦人科・腫瘍科 医長
	2006 年 6 月 1 日	大阪医科大学講師 (産婦人科学教室)
	2012 年 4 月 16 日	大阪医科大学診療准教授 (産婦人科学教室)
	2014 年 7 月 1 日	大阪医科大学附属病院産科・生殖医学科 科長

2014 年 7 月 1 日	大阪医科大学准教授（産婦人科学教室）
2018 年 12 月 16 日	神戸大学医学部産科婦人科学分野婦人科先端医療学部門 特命教授
2020 年 12 月 7 日	神戸大学医学部産科婦人科分野診療科長
2021 年 10 月 1 日	総合周産期母子医療センター長 地域活性化センター先端外科医療・内視鏡トレーニングセンター長

現在に至る.

賞 罰

2006 年 2 月 1 日	第 2 回 藤田賞授賞
----------------	-------------

業 績 目 録

1. 著書

No. 1

(英文：番号，著者名（掲載順に全員），著書名，発行所，発行年（西暦），頁の順に記入してください。)

(和文：番号，著書名，著者名（掲載順に全員），発行所，頁，発行年（西暦）の順に記入してください。)

(英文)

(分担執筆)

1. Kuramoto H, Nishida M,(eds). Ueda M, Yamashita Y, Takehara M, Terai Y, Kumagai K, Ueki K, Kanda K, Yamaguchi H, Akise D, Yamashita H, Hung YC and Ueki M. Biological implications of surviving gene expression in the development of endometriosis and endometrial carcinoma in cell and molecular biology of endometrial carcinoma. Springer-Verlag Tokyo, 2003, pp. 252-263.
2. Mikami M (editor), Terai Y. Surgery for Gynecologic Cancer, Comprehensive Gynecology and Obstetrics, 18. Laparoscopic Surgery for Endometrial Cancer. Springer Nature Singapore Pte Ltd. 2019, p283-294.
3. Daisuke Aoki(editor), Terai Y. Recent Topics on Prevention, Diagnosis, and Clinical Management of Cervical Cancer Sentinel Navigation Surgery for Local Advanced Cervical Cancer, Springer Nature Singapore Pte Ltd. 2024, p149-161.

(和文)

(分担執筆)

1. 新女性医学体系 39 産婦人科の良性腫瘍 卵巣の良性腫瘍、類腫瘍病変 良性腫瘍：総論 ー治療ー 寺井義人，岡本吉明. 中山書店, 1999
2. 今日の診療のために ガイドライン 外来診療 2002 婦人科疾患:子宮癌 寺井義人，植木 實.日経メディカル開発, 2002
3. 婦人科疾患:子宮癌 寺井義人，植木 實. 日経メディカル開発 2005
4. 卵巣癌 診療ハンドブック 杉山 徹偏 5-1 腫瘍マーカー 寺井義人. ヴァンメディカル, 56~59 2009
5. 臨床ナースのための Basic & Standard 婦人科看護の知識と実際 大道正英 監修，分担執筆者（金村昌徳，竹原幹雄，亀谷英輝，寺井義人，奥田喜代司，田辺晃子，山下能毅）MC メディカ出版, 2009
6. 婦人科ナーシングプラクティス 倉智博久，大谷和子，大道正英，神谷美佐子，若槻明彦，伊藤恵子偏 分担執筆者（金村昌徳，竹原幹雄，亀谷英輝，寺井義人，奥田喜代司，田辺晃子，山下能毅，恒遠啓示，関島龍治，檜原敬二郎，佐々木浩）文光堂, 2009
7. 卵巣癌治療ガイドライン 2010 日本腫瘍学会編 概論・卵巣癌の治療・手術療法 大道正英，寺井義人，金原出版, 2010
8. 宇田川康博監修，八重樫信生，片淵秀隆偏 7. 上皮性卵巣がんの初回治療 寺井義人，佐々木浩，大道正英，インフォームドコンセントのための図説シリーズ 卵巣癌 医歯薬ジャーナル社, 2010

業 績 目 録

1. 著書

No. 2

(英文：番号，著者名（掲載順に全員），著書名，発行所，発行年（西暦），頁の順に記入してください。)

(和文：番号，著書名，著者名（掲載順に全員），発行所，頁，発行年（西暦）の順に記入してください。)

-
9. 患者さんと家族のための子宮頸がん・体がん、卵巣がん治療ガイドライン解説 Q55.子宮を大きく摘出した場合、夫婦生活は諦めなければならないのでしょうか？ 寺井義人.金原出版, 2010
10. GPS レビュー：卵巣がん治療ガイドライン 卵巣がん治療ガイドライン・レビュー 寺井義人，大道正英．医療情報サービス Minds, 2011
11. 「婦人科がんの緩和ケア」 プロフェッショナルがんナーシング 寺井義人. MC メディカ出版 2(6) P85-87, 2012
12. 子宮体がん治療ガイドライン 2013 年版 寺井義人 金原出版, 2013
13. 産婦人科内視鏡手術ガイドライン 2013 年版 寺井義人 金原出版, 2013
14. 【プロメテウス 婦人科がん最新医療】子宮体がんの手術療法 腹腔鏡下手術 寺井義人，田中智人，藤原聡枝，兪 史夏，田中良道，佐々木浩，恒遠啓示，金村昌徳，大道正英 産婦人科の実際62(12): 1773-1778, 金原出版, 2013
15. EBM 婦人科疾患の治療 寺井義人 金原出版, 2013-2014
16. 子宮頸癌トータルマネジメント，寺井義人，メディカルレビュー社, 2014
17. 婦人科癌診療 Q&A 寺井義人，大道正英，中外医学社, 2014
18. 腹腔鏡下悪性腫瘍手術の最前線 特に広汎子宮全摘術のコツ 骨盤神経温存の確実性が向上。開腹手術とは異なる手術手技の習得が求められる(Q&A) 寺井義人日本医事新報 4832 号：59-60, 2016
19. One Fleek 産婦人科手術 分担執筆者 寺井義人、産婦人科の実際67(11): 1330-1337, 金原出版、2018
20. 子宮体がん治療ガイドライン 2018 年版 日本婦人科腫瘍学会編、分担執筆者 寺井義人、金原出版社、2018
21. 産婦人科内視鏡手術ガイドライン 2019 年版 日本産科婦人科内視鏡手術学会編、分担執筆者 寺井義人、金原出版社、2019
22. 担当医としてこのようにこたえたい がん患者・家族からの質問 分担執筆者 寺井義人、へるす出版、2019
23. 卵巣がん・卵管がん・腹膜癌治療ガイドライン 2020 年版 日本婦人科腫瘍学会編、分担執筆者 寺井義人、金原出版社、2020
-

業 績 目 録

1. 著書

No. 3

(英文：番号，著者名（掲載順に全員），著書名，発行所，発行年（西暦），頁の順に記入してください。)

(和文：番号，著書名，著者名（掲載順に全員），発行所，頁，発行年（西暦）の順に記入してください。)

-
24. 「産婦人科におけるロボット支援下手術の現状と展望」日本産婦人科医会報、寺井義人、日本産科婦人科医会、2020
25. 産科婦人科臨床 悪性腫瘍 分担執筆者 寺井義人、中山書店、2020
26. 産婦人科専門医のための必修知識 日本産科婦人科学会編 分担執筆者 寺井義人、日本産科婦人科学会、2020
27. 産婦人科内視鏡手術 スキルアップ 第3版 日本産科婦人科内視鏡学会編 分担執筆者 寺井義人、日本産科婦人科内視鏡学会、2020
28. 4.腹腔鏡下広汎子宮全摘術とロボット支援腹腔鏡下広汎子宮全摘術、JGOG ニュースレター 寺井義人、日本婦人科化学療法機構、2020
29. Rare tumor の最新知識 子宮頸部腫瘍 神経内分泌腫瘍 産婦人科の実際、長又哲史，寺井義人，金原出版，867-872，2021
30. 子宮体癌取扱い規約（病理編）第5版
日本産婦人科学会・日本病理学会編 編集委員 寺井義人他、金原出版、2022
31. 子宮頸癌取扱い規約（病理編）第5版
日本産婦人科学会・日本病理学会編 編集委員 寺井義人他、金原出版、2022
32. 卵巣腫瘍・卵巣癌・腹膜癌取扱い規約（病理編）第2版
日本産婦人科学会・日本病理学会編 編集委員 寺井義人他、金原出版、2022
33. 子宮体がん治療ガイドライン 2023 年度版
日本婦人科腫瘍学会編、編集委員 寺井義人他、金原出版、2023
34. 患者さんにご家族のための子宮頸がん・子宮体がん・卵巣がん治療ガイドライン
日本婦人科腫瘍学会編 編集委員 寺井義人他、金原出版、2023
35. 卵巣腫瘍・卵管癌・腹膜癌取扱い規約 臨床編 第1版(補訂版)，
日本産科婦人科学会・日本病理学会編 編集委員 寺井義人他、金原出版、2023
-

業 績 目 録

2. 論文 (原著)

No. 4

(英文：番号，著者名（掲載順に全員），論文題目，発行雑誌名，発行年（西暦），巻，頁，
(IF= , CI=) の順に記入してください。 corresponding author(s)には，著
者名の左に＊を付してください。)

(和文：番号，論文題目，著者名（掲載順に全員），発行雑誌名，巻，頁，発行年（西暦）
の順に記入してください。） [総説，その他も同様 (IF, CI は不要)]

(英文)

1. Yamada T, Yamashita Y, Terai Y, Ueki M, Intraoperative blood salvage in abdominal uterine myomectomy, Int J Gyne Obst, 1997, 56, 141-145. (IF=2.6, CI=11)
2. Ueda M, Ueki M, Terai Y, Morimoto A, Fujii H, Yoshizawa K and Yanagihara T, Stimulatory effects of EGF and TGF- α on invasive activity and 5'Deoxy-5-Fluorouridine sensitivity in uterine cervical-carcinoma SKG-IIIB cells, Int J Cancer, 1997, 72, 1027-1033. (IF=5.7, CI=20)
3. Yamada T, Terai Y, Yamashita Y and Ueki M, Removal of Malignant Cells through a Leukocyte-Depletion Filter for Autologous Blood Transfusion, Int J Clin Oncol, 1997 2, 143-14. (IF=2.4, CI=0)
4. Ueda M, Ueki K, Kumagai K, Terai Y, Okamoto Y, Ueki M, Otsuki Y, Apoptosis and tumor angiogenesis in cervical cancer after preoperative chemotherapy, Cancer Res, 1998, 58, 2343-2346. (IF=12.5, CI=45)
5. Ueda M, Fujii H, Yoshizawa K, Kumagai K, Ueki K, Terai Y, Yanagihara T, Ueki M, Effects of sex steroids and growth factors on invasive activity and 5'-deoxy-5-fluorouridine sensitivity in ovarian adenocarcinoma OMC-3 cells, Jpn J Cancer Res, 1998, 89, 1334-1342. (IF=2.225, CI=6)
6. Ueda M, Ueki K, Kumagai K, Terai Y, Kanemura M, Ueki M, Neoadjuvant intra-arterial infusion chemotherapy induces apoptotic cell death in locally advanced uterine cervical carcinoma. A preliminary report, Int J Gynecol Cancer, 1998, 8, 144-149. (IF=4.1, CI=4)
7. Ueda M, Fujii H, Yoshizawa K, Terai Y, Kumagai K, Ueki K, Ueki M, Effects of EGF and TGF- α on invasion and proteinase expression of uterine cervical adenocarcinoma OMC-4 cells, Invasion Metastasis, 1998, 18, 176-183. (IF=1.438, CI=8)
8. Ueda M, Terai Y, Kumagai K, Ueki K, Okamoto Y, Ueki M, Correlation between tumor angiogenesis and expression of thymidine phosphorylase and patient outcome in uterine cervical carcinoma, Hum Pathol, 1999, 30, 1389-1394. (IF=2.7, CI=26)
9. Ueda M, Ueki M, Terai Y, Ueki K, Kumagai K, Fujii H, Yoshizawa K, Nakajima M, Biological implications of growth factors on the mechanism of invasion in gynecological tumor cells, Gynecol Obstet Invest, 1999, 48, 221-228. (IF=2, CI=11)

業 績 目 録

2. 論文 (原著)

No. 5

(英文：番号，著者名（掲載順に全員），論文題目，発行雑誌名，発行年（西暦），巻，頁，
(IF= , CI=) の順に記入してください。 corresponding author(s)には，著
者名の左に*を付してください。)

(和文：番号，論文題目，著者名（掲載順に全員），発行雑誌名，巻，頁，発行年（西暦）
の順に記入してください。） [総説，その他も同様 (IF, CI は不要)]

- 1 0. Terai Y, Ueda M, Kumagai K, Ueki K, Ueki M, Tumor angiogenesis and thymidine phosphorylase expression in ovarian carcinomas including serous surface papillary adenocarcinoma of the peritoneum, Int J Gynecol Pathol, 2000, 19, 354-360. (IF=1.6, CI=14)
 - 1 1. Kanno S, Oda N, Abe M, Terai Y, Ito M, Shitara K, Tabayashi K, Shibuya M and Sato Y, Roles of two VEGF receptors, Flt-1 and KDR, in the signaltransduction of VEGF effects in human vascular endothelial cells, Oncogene, 2000, 19, 2138-2146. (IF=6.9, CI=299)
 - 1 2. Ueda M, Kitaura K, Kusada O, Mochizuki Y, Yamada N, Terai Y, Kumagai K, Ueki K, Ueki M, Regulation of dihydropyrimidine dehydrogenase and pyrimidine nucleoside phosphorylase activities by growth factors and subsequent effects on 5-fluorouracil sensitivity in tumor cells, Jpn J Cancer Res, 2000, 91, 1185-1191. (IF=2.225, CI=12)
 - 1 3. Ueda M, Terai Y, Kumagai K, Ueki K, Kanemura M, Ueki M, Correlation between thymidine phosphorylase expression and invasion phenotype in cervical carcinoma cells, Int J Cancer, 2001, 91, 778-782. (IF=5.7, CI=31)
 - 1 4. Terai Y, Abe M, Miyamoto K, Koike M, Yamasaki M, Ueda M, Ueki M, Sato Y, Vascular smooth muscle cell growth-promoting factor/F-spondin inhibits angiogenesis via the blockade of integrin avb3 on vascular endothelial cells, J Cell Physiology, 2001, 188, 394-402. (IF=4.5, CI=51)
 - 1 5. Ueda M, Terai Y, Kumagai K, Ueki K, Yamaguchi H, Akise D, Ueki M, Vascular endothelial growth factor C gene expression is closely related to invasion phenotype in gynecological tumor cells, Gynecol Oncol, 2001, 82, 162-166. (IF=4.5, CI=45)
 - 1 6. Ueda M, Terai Y, Yamashita Y, Kumagai K, Ueki K, Yamaguchi H, Akise D, Hung YC, Ueki M, Correlation between vascular endothelial growth factor-C expression and invasion phenotype in cervical carcinomas, Int J Cancer, 2002, 98, 335-343. (IF=5.7, CI=64)
 - 1 7. Ueda M, Yamashita Y, Takehara M, Terai Y, Kumagai K, Ueki K, Kanda K, Yamaguchi H, Akise D, Hung YC, Ueki M, Survivin gene expression in endometriosis. J Clin Eedocrinol Metab, 2002, 87, 3452-3459. (IF=5, CI=85)
 - 1 8. Yamashita Y, Ueda M, Takehara M, Yamashita H, Suzuki Y, Hung YC, Terai Y, Ueki M, Influence of sever endometriosis on gene expression of vascular endothelial growth factor and interleukin-6 in granulosa cells from patients undergoing cotrolled ovarian hyperstimulation for in vitro fertilization-embryo transfer, Fertil Steril, 2002, 78, 865-871. (IF=6.6, CI=0)
-

業 績 目 録

2. 論文 (原著)

No. 6

(英文：番号，著者名（掲載順に全員），論文題目，発行雑誌名，発行年（西暦），巻，頁，
(IF= , CI=) の順に記入してください。 corresponding author(s)には，著
者名の左に＊を付してください。)

(和文：番号，論文題目，著者名（掲載順に全員），発行雑誌名，巻，頁，発行年（西暦）
の順に記入してください。） [総説，その他も同様 (IF, CI は不要)]

-
- 1 9. Ueda M, Yamashita Y, Takehara M, Terai Y, Kumagai K, Ueki K, Kanda K, Hung Y C, Ueki M, Gene expression of adhesion molecules and matrix metalloproteinases in endometriosis, Gyecol Endocriol, 2002, 16, 391-402. (IF=2, CI=51)

 - 2 0. Hung Y. C, Ueda M, Terai Y, Kumagai K, Ueki K, Kanda K, Yamaguchi H, Akise D, Ueki M, Homeobox gene expression and mutation in cervical carcinoma cells, Cancer Sci, 2003, 94, 437-441. (IF=4.5, CI=39)

 - 2 1. Ueda M, Hung Y C, Terai Y, Kanda K, Takehara M, Yamashita H, Yamaguchi H, Akise D, Yasuda M, Nishiyama K, Ueki M, Glutathione S-transferase GSTM1, GSTT1 and p53 codon 72 polymorphisms in human tumor cells. Hum Cell 2003, 16, 241-251. (IF=3.4, CI=0)

 - 2 2. Ueda M, Ueki K, Kanemura M, Izuma S, Yamaguchi H, Terai Y, Ueki M, Conservative excisional laser conization for early invasive cervical cancer, Gynecol, Oncol, 2004, 95, 231-234. (IF=4.5, CI=10)

 - 2 3. Takehara M, Ueda M, Yamashita Y, Terai Y, Hung Y C, Ueki M, Vascular endothelial growth factor A and C gene expression in endometriosis, Hum Pathol, 2004, 35, 1369-1375. (IF=2.7, CI=98)

 - 2 4. Ueda M, Hung Y C, Terai Y, Saito J, Nunobiki O, Noda S, Ueki M, Glutathione-S-transferase and p53 polymorphisms in cervical carcinogenesis. Gynecol Oncol, 2005, 96, 736-740. (IF=4.5, CI=26)

 - 2 5. Ueda M, Hung Y C, Terai Y, Kanda K, Kanemura M, Futakuchi H, Yamaguchi H, Akise D, Yasuda M, Ueki M, Vascular endothelial growth factor-C expression and invasive phenotype in ovarian carcinomas, Clin Cancer Res, 2005, 11, 3225-3232. (IF=10, CI=59)

 - 2 6. Ueda, M, Hung Y C, Terai Y, Yamaguchi H, Saito J, Nunobiki O, Noda S, Ueki M, Fas gene promoter -670 polymorphism (A/G) is associated with cervical carcinogenesis, Gynecol Oncol, 2005, 98, 129-133. (IF=4.5, CI=38)

 - 2 7. Kanda K, Ueda M, Futakuchi H, Yamaguchi H, Mori K, Terai Y, Ueki M, Transcriptional expression of the genes implicated in angiogenesis and tumor invasion in cervical carcinomas, Gynecol Oncol, 2005, 98, 453-461. (IF=4.5, CI=15)

 - 2 8. Ueda M, Terai Y, Kanda K, Kanemura M, Takehara M, Futakuchi H, Yamaguchi H, Yasuda M, Nishiyama K, Ueki M, Tumor Angiogenesis and Molecular Target Therapy in Ovarian Carcinomas, HUMAN CELL, 2005, 18, 1-16. (IF=3.4, CI=0)
-

業 績 目 録

2. 論文 (原著)

No. 7

(英文：番号，著者名（掲載順に全員），論文題目，発行雑誌名，発行年（西暦），巻，頁，
(IF= , CI=) の順に記入してください。 corresponding author(s)には，著
者名の左に*を付してください。)

(和文：番号，論文題目，著者名（掲載順に全員），発行雑誌名，巻，頁，発行年（西暦）
の順に記入してください。） [総説，その他も同様 (IF, CI は不要)]

-
- 2 9 . Ueda M, Terai Y, Kanda K, Kanemura M, Takehara M, Yamaguchi H, Nishiyama K, Yasuda M, Ueki M, Germline polymorphism of p53 codon 72 in gynecological cancer. Gynecol Oncol, 2006, 100, 173-178. (IF=4.5, CI=40)
- 3 0 . Ueda M, Ueki K, Kanemura M, Izuma S, Yamaguchi H, Nishiyama K, Tanaka Y, Terai Y, Ueki M, Diagnostic and therapeutic laser conization for cervical intraepithelial neoplasia, Gynecol Oncol, 2006, 101, 143-146. (IF=4.5, CI=26)
- 3 1 . Ueda M, Hung Y C, Terai Y, Saito J, Nunobiki O, Noda S, Ueki M, HER-2 codon 655 polymorphism in cervical carcinogenesis, Int J Gynecol Cancer, 2006, 16, 325-328. (IF=4.1, CI=5)
- 3 2 . Ueda M, Terai Y, Kanda K, Kanemura M, Takehara M, Yamaguchi H, Nishiyama K, Yasuda M, Ueki M, Fas gene promoter -670 polymorphism in gynecological cancer, Int J Gynecol Cancer, 2006, 16, 179-182. (IF=4.1, CI=31)
- 3 3 . Ueda M, Hung Y C, Chen J T, Chiou S H, Huang H H, Lin T Y, Terai Y, Chow K C, Infection of human papillomavirus and overexpression of dihydrodiol dehydrogenase in uterine cervical cancer, Gynecol Oncol, 2006, 102, 173-181. (IF=4.5, CI=23)
- 3 4 . Ueda M, Terai Y, Ueki M, Re: "Germline polymorphism of p53 codon 72 in ovarian cancer", Gynecol Oncol, 2006, 101, 373. (IF=4.5, CI=0)
- 3 5 . Fujino K, Ueda M, Takehara M, Futakuchi H, Kanda K, Yamashita Y, Terai Y and Ueki M, Transcriptional expression of surviving and its splice variants in endometriosis, Mol Hum Reprod, 2006, 12, 383-388. (IF=3.6, CI=26)
- 3 6 . Yamashita Y, Asano M, Morishima S, Fujino K, Terai Y, Ohmichi M, Mitochondrial gene expression in granulosa cells of severe endometriosis with in vitro fertilization and embryo transfer, Fertil Steril, 2007, 88, 1703-1705. (IF=6.6, CI=9)
- 3 7 . Sasaki H, Hayakawa J, Terai Y, Kanemura M, Tanabe-Kimura A, Kamegai H, Seino-Noda H, Ezoe S, Matsumura I, Kanakura Y, Sakata M, Tasaka K and Ohmichi M, Difference between genomic actions of estrogen versus raloxifene in human ovarian cancer cell lines, Oncogene, 2008, 27, 2737-2745. (IF=6.9, CI=21)
- 3 8 . Fujita D, Tanabe-Kimura A, Sekijima T, Soen, H, Narahara K, Yamashita Y, Terai Y, Kamegai H, Ohmichi M, MOLECULAR MECHANISMS OF ANGIOGENIC FACTORS PRODUCTION UNDER HYPOXIC CONDITION IN TROPHOBLAST DERIVED CELLS, PLACENTA, 2008, 29, 913. (IF=3, CI=0)
-

業 績 目 録

2. 論文 (原著)

No. 8

(英文：番号，著者名（掲載順に全員），論文題目，発行雑誌名，発行年（西暦），巻，頁，
(IF= , CI=) の順に記入してください。 corresponding author(s)には，著
者名の左に*を付してください。)

(和文：番号，論文題目，著者名（掲載順に全員），発行雑誌名，巻，頁，発行年（西暦）
の順に記入してください。） [総説，その他も同様 (IF, CI は不要)]

3 9. Yamashita Y, Okuda K, Hayashi A, Terai Y, Ohmichi M, Effectiveness of laparoscopic surgery against antibiotics-resistant pelvic inflammatory disease, Bull OMC, 2009, 55, 1-7. (IF=0, CI=0)

4 0. Mabuchi S, Terai Y, Morishige K, Tanabe-Kimura A, Sasaki H, Kanemura M, Tsunetoh S, Tanaka Y, Sakata M, Burger RA, Maintenance Treatment with Bevacizumab Prolongs Survival in an In vivo Ovarian Cancer Model, Clinical Cncer Research, 2008, 14, 7781-7789. (IF=10, CI=81)

4 1. *Terai Y, Kanemura M, Sasaki H, Tsunetoh S, Tanaka Y, Yamashita Y, Yamamoto K, Narabayashi I, Ohmichi M, Long-term follow-up of neoadjuvant intraarterial chemotherapu using an original four-lumen double balloon(4L-DB) catheter for locally advanced uterine cervical cancer, Int J Clin Oncol, 2009, 14, 56-62. (IF=2.4, CI=8)

4 2. Yasuda M, *Terai Y, Sekijima T, Sasaki H, Yamashita Y, Kanemura M, Ohmichi M, Successful pregnancy after conservative surgery for stage IA endometrial cancer in a young woman, Fertil Steril, 2009, 91, 936e.13-15. (IF=6.6, CI=4)

4 3. Fujioka S, Yamashita Y, Kawabe S, Kamegai H, Terai Y, Ohmichi M, A case of a methotrexate-resistant ectopic pregnancy in which dactinomycin was effective as a second-line chemotherapy, Fertil Steril, 2009, 91929 , e13-15. (IF=6.6, CI=8)

4 4. Tsunetoh S, *Terai Y, Sasak H, Tanabe A, Tanaka Y, Sekijima T, Fujioka S, Kawaguchi H, Kanemura M, Yamashita Y, Ohmichi M, Topotecan as a molecular targeting agent which blocks the Akt and VEGF cascade in platinum-resistant ovarian cancers, Cancer Biol Ther, 2010, 10, 1137-1146. (IF=4.4, CI=20)

4 5. Mabuchi S, Kawase C, Altomare DA, Morishige K, Hayashi M, Sawada K, Ito K, Terai Y, Nishio Y, Klein-Szanto AJ, Burger RA, Ohmichi M, Testa JR, Kimura T, Vascular endothelial growth factor is a promising therapeutic target for the treatment of clear cell carcinoma of the ovary, Mol Cancer Ther, 2010, 9, 2411-2422. (IF=5.3, CI=67)

4 6. Fujiwara S, Yamashita Y, Yoshida Y, Terai Y, Okuda K, Ohmichi M, Mature cystic teratoma of the fallopian tube, Fertil Steril, 2010, 94, 2708-2709. (IF=6.6, CI=4)

4 7. Fujita D, Tanabe A, Sekijima T, Soen H, Narahara K, Yamashita Y, Terai Y, Kamegai H, Ohmichi M, Role of extracellular signal-regulated kinase and AKT cascades in regulating hypoxia-induced angiogenic factors produced by a trophoblast- derived cell line, J Endocrinol, 2010, 206, 131-140. (IF=3.4, CI=29)

業 績 目 録

2. 論文 (原著)

No. 9

(英文：番号，著者名（掲載順に全員），論文題目，発行雑誌名，発行年（西暦），巻，頁，
(IF= , CI=) の順に記入してください。 corresponding author(s)には，著
者名の左に*を付してください。)

(和文：番号，論文題目，著者名（掲載順に全員），発行雑誌名，巻，頁，発行年（西暦）
の順に記入してください。） [総説，その他も同様 (IF, CI は不要)]

- 4 8. Tsuda H, Ito K, Yaegashi N, Hirasawa A, Sudo T, Kita T, Terai Y, Kigawa J, Sugiyama T, Aoki D, Relationship between ABCF2 expression and response to chemotherapy or prognosis in clear cell adenocarcinoma of the Ovary, Int J Gynecol Cancer, 2010, 20, 794-797. (IF=4.1, CI=7)
- 4 9. Nishimura S, Tsuda H, Ito K, Takano M, Terai Y, Jobo T, Kigawa J, Sugiyama T, Yaegashi N, Aoki D, Differential expression of hypoxia-inducible protein 2 among different histological types of epithelial ovarian adenocarcinomas, Int J Gynecol Cancer, 2010, 20, 220-226. (IF=4.1, CI=11)
- 5 0. Karita M, Yamashita Y, Hayashi A, Yoshida Y, Hayashi M, Yamamoto H, Terai Y, Ohmichi M, Does advanced stage endometriosis affect the gene expression of estrogen and progesterone receptors in granulosa cells? , Fertil Steril, 2011, 95, 889-894. (IF=6.6, CI=23)
- 5 1. Tanaka Y, *Terai Y, Tanabe A, Sasaki H, Sekijima T, Fujiwara S, Yamashita Y, Kanemura M, Ueda M, Sugita M, Franklin WA, Ohmichi M, Prognostic effect of epidermal growth factor receptor gene mutations and the aberrant phosphorylation of Akt and ERK in ovarian cancer, Cancer Biol Ther, 2011, 11, 50-57. (IF=4.4, CI=37)
- 5 2. Sekijima T, Tanabe A, Maruoka R, Fujishiro N, Yu S, Fujiwara S, Yuguchi Y, Yamashita Y, Terai Y, Ohmichi M, Impact of platinum-based chemotherapy on the progression of atherosclerosis, Climacteric, 2011, 14, 31-40. (IF=2.9, CI=27)
- 5 3. Hayashi M, Yamashita Y, Kanemura M, Terai Y and Ohmichi M, Paraovarian Tumor of Borderline Malignancy Found During Pregnancy, Bull OMC, 2011, 57, 107-109. (IF=0, CI=0)
- 5 4. Nakamura Y, Okuda K, Yamashita Y, Terai Y, Yoshida Y and Ohmichi M, Two Cases of Isolated Fallopian Tube Torsion Diagnosed and Treated by Laparoscopy: Two Different Underlying Causes, Bull OMC, 2011, 57, 101-105. (IF=0, CI=0)
- 5 5. Kato S, Tanaka T, Terai Y, Yamashita Y, Ohmichi M, Interstitial pregnancy treated by transcervical aspiration of gestational sac combined with systemic and local administration of methotrexate, J Obstet Gynecol Res, 2011, 37, 1250-1254. (IF=1.6, CI=7)
- 5 6. Fujiwara S, *Terai Y, Kawaguchi H, Takai M, Yoo S, Tanaka Y, Tanaka T, Tsunetoh S, Sasaki H, Kanemura M, Tanabe A, Yamashita Y, Ohmichi M, GPR30 regulates the EGFR-Akt cascade and predicts lower survival in patients with ovarian cancer, J Ovarian Res, 2012, 5, 35. (IF=3.8, CI=61)

業 績 目 録

2. 論文 (原著)

No. 10

(英文：番号，著者名（掲載順に全員），論文題目，発行雑誌名，発行年（西暦），巻，頁，
(IF= , CI=) の順に記入してください。 corresponding author(s)には，著
者名の左に*を付してください。)

(和文：番号，論文題目，著者名（掲載順に全員），発行雑誌名，巻，頁，発行年（西暦）
の順に記入してください。） [総説，その他も同様 (IF, CI は不要)]

-
- 5 7. Takai M, Kanemura M, Kawaguchi H, Fujiwara S, Yoo S, Tanaka Y, Tsunetoh S, Terai Y, Yamada T, Ohmichi M, Mucinous adenocarcinoma of the intestinal type arising from mature cystic teratoma of the ovary: a rare case report and review of the literature, J Ovarian Res, 2012, 5, 41. (IF=3.8, CI=16)
- 5 8. Kumagai K, Terai Y, Kanemura M, Yamashita Y, Ohmichi M, Postoperative Adjuvant Chemotherapy with Paclitaxel, Pirarubicin, and Carboplatin for High-risk Cervical Adenocarcinoma: A 5-year Follow-up, Bull OMC, 2012, 58, 45-48. (IF=0, CI=0)
- 5 9. Nishio K, Tanabe A, Maruoka R, Nakamura K, Takai M, Sekijima T, Tunetoh S, Terai Y, Ohmichi M, Bone mineral loss induced by anticancer treatment for gynecological malignancies in premenopausal women, Endocr Connect, 2013, 2, 12-18. (IF=2.6, CI=21)
- 6 0. Higuchi Y, Okuda K, Nakamura Y, Hayashi A, Hayashi M, Fujiyama F, Yoshida Y, Yamashita Y, Terai Y, Kamegai H, Ohmichi M, Efficacy and safety of bipolar electrode grasping forceps for laparoscopic myomectomy in uterine cervical myoma, Asian J Endosc Surg, 2013, 5, 126-130. (IF=0.9, CI=0)
- 6 1. Tanaka Y, *Terai Y, Kawaguchi H, Fujiwara S, Yoo S, Tsunetoh S, Takai M, Kanemura M, Tanabe A, Ohmichi M, Prognostic impact of EMT (epithelial-mesenchymal-transition)-related protein expression in endometrial cancer, Cancer Biol Ther, 2013, 14, 13-19. (IF=4.4, CI=77)
- 6 2. *Terai Y, Sasaki H, Tsunetoh S, Tanaka Y, Yoo S, Fujiwara S, Kanemura M, Ohmichi M, Novel para-aortic lymphadenectomy technique for gynecological malignancies prevents postoperative bowel obstruction, J Obstet Gynaecol Res, 2013, 39, 849-854. (IF=1.6, CI=1)
- 6 3. Hatta K, *Terai Y, Okuda K, Nakamura Y, Yoo S, Tanaka Y, Tsunetoh S, Hayashi A, Yamashita Y, Ohmichi M, Preoperative assessment by magnetic resonance imaging is useful for planning the treatment of an enlarged uterus by total laparoscopic hysterectomy, J Obstet Gynaecol Res, 2013, 39, 814-819. (IF=1.6, CI=9)
- 6 4. Yuguchi H, Tanabe A, Hayashi A, Tanaka Y, Okuda K, Yamashita Y, Terai Y, Ohmichi M, The Expression Status of G Protein-Coupled Receptor GPR30 is Associated with the Clinical Characteristics of Endometriosis, Endocr Res, 2013, 38, 223-231. (IF=1.5, CI=13)
-

業 績 目 録

2. 論文 (原著)

No. 11

(英文：番号，著者名（掲載順に全員），論文題目，発行雑誌名，発行年（西暦），巻，頁，
(IF= , CI=) の順に記入してください。 corresponding author(s)には，著
者名の左に*を付してください。)

(和文：番号，論文題目，著者名（掲載順に全員），発行雑誌名，巻，頁，発行年（西暦）
の順に記入してください。） [総説，その他も同様 (IF, CI は不要)]

-
- 6 5. Yoo S, *Terai Y, Tanaka T, Tanaka Y, Tsunetoh S, Kanemura M, Ohmichi M, Role of the two-point pull-up technique for treating the uterine arteries during radical hysterectomy and trachelectomy, Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol, 2013, 170, 544-549. (IF=2.1, CI=12)
- 6 6. Yoo M, Tanaka T, Fujita D, Terai Y, Kamegai H, and Ohmichi M, Three Cases of Serious Placenta Increta Treated with Type II Radical Hysterectomy, Bull OMC, 2013 59, 21-25. (IF=0, CI=0)
- 6 7. Fukuda M, Tanaka T, Kamada M, Hayashi A, Yamashita Y, Terai Y, Ohmichi M, Comparison of the Perinatal Outcomes after Laparoscopic Myomectomy versus Abdominal Myomectomy, Gynecol Obstet Invest, 2013, 76, 203-208. (IF=0.82, CI=40)
- 6 8. Kawaguchi H, Kanemura M, Nakamura M, Fujiwara S, Yoo S, Tanaka Y, Tanaka T, Tsunetoh S, Terai Y, and Ohmichi M, High Incidence of VTE in Gynecological Cancer Patients Before Surgery, Bull OMC, 2013, 59, 9-16. (IF=0, CI=0)
- 6 9. Yoshida Y, Yamashita Y, Saito N, Ono Y, Yamamoto H, Nakamura Y, Hayashi A, Terai Y, Ohmichi M, Analyzing the possible involvement of anti-Müllerian hormone and anti-Müllerian hormone receptor II single nucleotide polymorphism in infertility, J Assist Reprod Genet, 2014, 31, 163-168. (IF=3.2, CI=12)
- 7 0. *Terai Y, Tanaka T, Sasaki H, Kawaguchi H, Fujiwara S, Yoo S, Tanaka Y, Tsunetoh S, Kanemura M, Ohmichi M, Total laparoscopic modified radical hysterectomy with lymphadenectomy for endometrial cancer compared with laparotomy, J Obstet Gynaecol Res, 2014, 40, 570-575. (IF=1.6, CI=20)
- 7 1. Ashihara K, Tanaka T, Maruoka R, Ono YJ, Tanabe A, Terai Y, Ohmichi M, Postmenopausal patients with endometrial cancer of type 1 have elevated serum estradiol levels in the ovarian vein, Int J Gynecol Cancer, 2014, 24, 1455-1460. (IF=4.1, CI=4)
- 7 2. Ono YJ, *Terai Y, Tanabe A, Hayashi A, Hayashi M, Yamashita Y, Kyo S, Ohmichi M, Decorin induced by progesterone plays a crucial role in suppressing endometriosis, J Endocrinol, 2014, 223, 203-216. (IF=3.4, CI=24)
- 7 3. Takai M, *Terai Y, Kawaguchi H, Ashihara K, Fujiwara S, Tanaka T, Tsunetoh S, Tanaka Y, Sasaki H, Kanemura M, Tanabe A, Ohmichi M, The EMT (epithelial-mesenchymal-transition)-related protein expression indicates the metastatic status and prognosis in patients with ovarian cancer, J Ovarian Res, 2014 27, 7, 76. (IF=3.8, CI=106)
-

業 績 目 録

2. 論文 (原著)

No. 12

(英文：番号，著者名（掲載順に全員），論文題目，発行雑誌名，発行年（西暦），巻，頁，
(IF= , CI=) の順に記入してください。 corresponding author(s)には，著
者名の左に*を付してください。)

(和文：番号，論文題目，著者名（掲載順に全員），発行雑誌名，巻，頁，発行年（西暦）
の順に記入してください。） [総説，その他も同様 (IF, CI は不要)]

-
- 7 4 . Ono YJ, Tanabe A, Nakamura Y, Yamamoto H, Hayashi A, Tanaka T, Sasaki H, Hayashi M, Terai Y, Ohmichi M, A low-testosterone state associated with endometrioma leads to the apoptosis of granulosa cells, PLoS One, 2014, 23, 9, e115618. (IF=2.9, CI=25)
- 7 5 . Maruoka R, Tanabe A, Watanabe A, Nakamura K, Ashihara K, Tanaka T, Terai Y, Ohmichi M, Ovarian estradiol production and lipid metabolism in postmenopausal women, Menopause, 2014, 21, 1129-1135. (IF=2.8, CI=8)
- 7 6 . Saito N, Okuda K, Yuguchi H, Yamashita Y, Terai Y, Ohmichi M, Compared with cystectomy, is ovarian vaporization of endometriotic cysts truly more effective in maintaining ovarian reserve? J Minim Invasive Gynecol, 2014, 21, 804-810. (IF=3.5, CI=16)
- 7 7 . Kawaguchi H, *Terai Y, Tanabe A, Sasaki H, Takai M, Fujiwara S, Ashihara K, Tanaka Y, Tanaka T, Tsunetoh S, Kanemura M, Ohmichi M, Gemcitabine as a molecular targeting agent that blocks the Akt cascade in platinum-resistant ovarian cancer, J Ovarian Res, 2014, 7, 38. (IF=3.8, CI=0)
- 7 8 . Tanaka T, Ashihara K, Nakamura M, Kanda T, Fujita D, Yamashita Y, Terai Y, Kamegai H, Ohmichi M, Associations between the pre-pregnancy body mass index and gestational weight gain with pregnancy outcomes in Japanese women, J Obstet Gynaecol Res, 2014, 40, 1296-1303. (IF=1.6, CI=30)
- 7 9 . Kato S, Tanabe A, Kanki K, Suzuki Y, Sano T, Tanaka K, Fujita D, Terai Y, Kamegai H, Ohmichi M, Local injection of vasopressin reduces the blood loss during cesarean section in placenta previa, J Obstet Gynaecol Res, 2014, 40, 1249-1256. (IF=1.6, CI=11)
- 8 0 . Morimoto A, Ueda Y, Egawa-Takata T, Yagi A, Terai Y, Ohmichi M, Ichimura T, Sumi T, Murata H, Kanzaki H, Nakai H, Mandai M, Yoshino K, Fujita M, Kimura T, Saito J, Sobue T, Nishikawa N, Sekine M, Enomoto T, Horikoshi Y, Takagi T, Effect on HPV vaccination in Japan resulting from news report of adverse events and suspension of governmental recommendation for HPV vaccination, Int J Clin Oncol. 2015, 20, 549-555. (IF=2.4, CI=41)
- 8 1 . Watanabe A, Tanabe A, Maruoka R, Nakamura K, Hatta K, Ono YJ, Terai Y, Ohmichi M, Fibrates protect against vascular endothelial dysfunction induced by paclitaxel and carboplatin chemotherapy for cancer patients: a pilot study, Int J Clin Oncol, 2015, 20, 829-838. (IF=2.4, CI=9)
-

業 績 目 録

2. 論文 (原著)

No. 13

(英文：番号，著者名（掲載順に全員），論文題目，発行雑誌名，発行年（西暦），巻，頁，
(IF= , CI=) の順に記入してください。 corresponding author(s)には，著
者名の左に*を付してください。)

(和文：番号，論文題目，著者名（掲載順に全員），発行雑誌名，巻，頁，発行年（西暦）
の順に記入してください。） [総説，その他も同様 (IF, CI は不要)]

-
- 8 2. Tanaka T, Terai Y, Ono YJ, Fujiwara S, Tanaka Y, Sasaki H, Tsunetoh S, Kanemura M, Ohmichi M, Genitofemoral Neuropathy After Pelvic Lymphadenectomy in Patients With Uterine Corpus Cancer, *Int J Gynecol Cancer*, 2015, 25, 533-536. (IF=4.1, CI=2)
- 8 3. Takai M, Nakagawa T, Tanabe A, Terai Y, Ohmichi M, Asahi M, Crosstalk between PI3K and Ras pathways via protein phosphatase 2A in human ovarian clear cell carcinoma, *Cancer Biol Ther*, 2015, 16, 325-335. (IF=4.4, CI=14)
- 8 4. Ono YJ, Hayashi M, Tanabe A, Hayashi A, Kanemura M, Terai Y, Ohmichi M, Estradiol-mediated hepatocyte growth factor is involved in the implantation of endometriotic cells via the mesothelial-mesenchymal transition in the peritoneum, *Am J Physiol Endocrinol Metab*, 2015, 308, E950-959. (IF=4.2, CI=17)
- 8 5. Tanaka T, Terai Y, Ono YJ, Fujiwara S, Tanaka Y, Sasaki H, Tsunetoh S, Kanemura M, Yamamoto K, Yamada T, Ohmichi M, Preoperative MRI and intraoperative frozen section diagnosis of myometrial invasion in patients with endometrial cancer, *Int J Gynecol Cancer*, 2015, 25, 879-883. (IF=4.1, CI=33)
- 8 6. Fujiwara S, *Terai Y, Tsunetoh S, Sasaki H, Kanemura M, Ohmichi M, Palonosetron versus granisetron in combination with aprepitant for the prevention of chemotherapy-induced nausea and vomiting in a population with gynecologic malignancy treated with moderately emetic chemotherapy, *J Gynecol Oncol*, 2015, 26 : 311-319. (IF=3.4, CI=15)
- 8 7. Ono YJ, Tanabe A, Tanaka T, Tanaka Y, Hayashi M, Terai Y, Ohmichi M, Met signaling cascade is amplified by the recruitment of phosphorylated-Met to lipid rafts via CD24, and leads to drug resistance in endometrial cancer cell lines, *Mol Cancer Ther*, 2015, 14 2353-2363. (IF=5.3, CI=12)
- 8 8. Nakamura M, Ono YJ, Kanemura M, Tanaka T, Hayashi M, Terai Y, Ohmichi M, Hepatocyte growth factor secreted by ovarian cancer cells stimulates peritoneal implantation via the mesothelial-mesenchymal transition of the peritoneum, *Gynecol Oncol*, 2015, 139, 345-354. (IF=4.5, CI=44)
- 8 9. Tanaka T, *Terai Y, Kogata Y, Ashihara K, Maeda K, Fujiwara S, Yoo S, Tanaka Y, Tsunetoh S, Sasaki H, Kanemura M, Tanabe A, Ohmichi M, CD24 expression as a marker for predicting clinical outcome and invasive activity in uterine cervical cancer, *Oncol Rep*, 2015, 34, 2282-2288. (IF=3.8, CI=23)
-

業 績 目 録

2. 論文 (原著)

No. 14

(英文：番号，著者名（掲載順に全員），論文題目，発行雑誌名，発行年（西暦），巻，頁，
(IF= , CI=) の順に記入してください。 corresponding author(s)には，著
者名の左に*を付してください。)

(和文：番号，論文題目，著者名（掲載順に全員），発行雑誌名，巻，頁，発行年（西暦）
の順に記入してください。） [総説，その他も同様 (IF, CI は不要)]

-
- 9 0 . Yamada T, Hattori K, Satomi H, Hirose Y, Nakai G, Daimon A, Hayashi A, Terai Y, Ohmichi M, Fukunaga M, Mitotically active cellular fibroma of the ovary: a case report and literature review, J Ovarian Res, 2015, 8, 65. (IF=3.8, CI=7)
- 9 1 . Kawabe S, Yamashita Y, Saito N, Kokunai K, Hayashi A, Hayashi M, Terai Y, Miyazaki K, Ohmichi M, The effect of moderate to severe endometriosis on expression of growth differentiation factor-9 mRNA in human granulosa cells under controlled ovarian hyperstimulation, Reprod Med Biol, 2015, 14, 179-184. (IF=2.7, CI=0)
- 9 2 . Tsuboyama T, Yamamoto K, Nakai G, Yamada T, Fujiwara S, Terai Y, Ohmichi M, Narumi Y, A case of gastric-type adenocarcinoma of the uterine cervix associated with lobular endocervical glandular hyperplasia: radiologic-pathologic correlation, Abdom Imaging, 2015, 43, 459-465. (IF=2.443, CI=10)
- 9 3 . Egawa-Takata T, Ueda Y, Tanaka Y, Morimoto A, Kubota S, Yagi A, Terai Y, Ohmichi M, Ichimura T, Sumi T, Murata H, Okada H, Nakai H, Mandai M, Yoshino K, Kimura T, Saito J, Kudo R, Sekine M, Enomoto T, Horikoshi Y, Takagi T, Shimura K, Mothers' attitudes in Japan regarding cervical cancer screening correlates with intention to recommend cervical cancer screening for daughters, Int J Clin Oncol, 2016, 21, 962-968. (IF=2.4, CI=7)
- 9 4 . Kanki K, Ii M, Terai Y, Ohmichi M, Asahi M, Bone marrow-derived endothelial progenitor cells reduce recurrent miscarriage in gestation, Cell Transplant, 2016, 25, 2187-2197. (IF=3.2, CI=6)
- 9 5 . Yagi A, Ueda Y, Egawa-Takata T, Tanaka Y, Terai Y, Ohmichi M, Ichimura T, Sumi T, Murata H, Okada H, Nakai H, Mandai M, Matsuzaki S, Kobayashi E, Yoshino K, Kimura T, Saito J, Hori Y, Morii E, Nakayama T, Suzuki Y, Motoki Y, Sukegawa A, Asai-Sato M, Miyagi E, Yamaguchi M, Kudo R, Adachi S, Sekine M, Enomoto T, Horikoshi Y, Takagi T, Shimura K, Project conducted in Hirakata to improve cervical cancer screening rates in 20-year-old Japanese: Influencing parents to recommend that their daughters undergo cervical cancer screening, J Obstet Gynaecol Res, 2016, 42, 1802-1807. (IF=1.6, CI=7)
- 9 6 . Yagi A, Ueda Y, Egawa-Takata T, Tanaka Y, Morimoto A, Terai Y, Ohmichi M, Ichimura T, Sumi T, Murata H, Okada H, Nakai H, Mandai M, Yoshino K, Kimura T, Saito J, Kudoh R, Sekine M, Enomoto T, Hirai K, Horikoshi Y, Takagi T, Shimura K, Development of an efficient strategy to improve HPV immunization coverage in Japan. BMC Public Health, 2016, 16, 1013. (IF=3.5, CI=22)
-

業 績 目 録

2. 論文 (原著)

No. 15

(英文：番号，著者名（掲載順に全員），論文題目，発行雑誌名，発行年（西暦），巻，頁，
(IF= , CI=) の順に記入してください。 corresponding author(s)には，著
者名の左に*を付してください。)

(和文：番号，論文題目，著者名（掲載順に全員），発行雑誌名，巻，頁，発行年（西暦）
の順に記入してください。） [総説，その他も同様 (IF, CI は不要)]

-
- 9 7 . Nakamura M, Yamashita Y, Hayashi A, Saito N, Yu M, Hayashi M, Terai Y, Ohmichi M, Analyzing the risk factors for a diminished oocyte retrieval rate under controlled ovarian stimulation, *Reprod Med Biol*, 2016, 16, 40-44. (IF=2.7, CI=0)
- 9 8 . Tanaka T, *Terai Y, Ashihara K, Tsunetoh S, Akagi H, Yamada T, Ohmichi M, The detection of sentinel lymph nodes in laparoscopic surgery for uterine cervical cancer using 99m-technetium-tin colloid, indocyanine green, and blue dye, *Journal of Gynecologic Oncology*, 2017, 28, e13. (IF=3.4, CI=31)
- 9 9 . Yagi A, Ueda Y, Egawa-Takata T, Tanaka Y, Nakae R, Morimoto A, Terai Y, Ohmichi M, Ichimura T, Sumi T, Murata H, Okada H, Nakai H, Mandai M, Matsuzaki S, Kobayashi E, Yoshino K, Kimura T, Saito J, Hori Y, Morii E, Nakayama T, Suzuki Y, Motoki Y, Sukegawa A, Asai-Sato M, Miyagi E, Yamaguchi M, Kudo R, Adachi S, Sekine M, Enomoto T, Horikoshi Y, Takagi T, Shimura K, Realistic fear of cervical cancer risk in Japan depending on birth year, *Hum Vaccin Immunother*, 2017, 13, 1700-1704. (IF=4.1, CI=31)
- 1 0 0 . Nakamura K, *Terai Y, Tanabe A, Ono YJ, Hayashi M, Maeda K, Fujiwara S, Ashihara K, Nakamura M, Tanaka Y, Tanaka T, Tsunetoh S, Sasaki H, Ohmichi M, CD24 expression is a marker for predicting clinical outcome and regulates the epithelial-mesenchymal transition in ovarian cancer via both the Akt and ERK pathways, *Oncol Rep*, 2017, 37, 3189-3200. (IF=3.8, CI=83)
- 1 0 1 . Tanaka T, Terai Y, Ashihara K, Fujiwara S, Tanaka Y, Sasaki H, Tsunetoh S, Ohmichi M, The efficacy of the cyclin-dependent kinase 4/6 inhibitor in endometrial cancer, *PLoS One*, 2017, 12, e0177019. (IF=2.9, CI=10)
- 1 0 2 . Tanaka T, *Terai Y, Hayashi S, Aoki D, Miki M, Kobayashi E, Kimura T, Baba T, Matsumura N, Ohmichi M, Comparison Between Laparoscopy and Laparotomy in Systematic Para-Aortic Lymphadenectomy for Patients with Endometrial Cancer: A Retrospective Multicenter Study, *J Gynecol Surg*, 2017, 33, 105-110. (IF=0.3, CI=0)
- 1 0 3 . Yamamoto H, Yamashita Y, Saito N, Hayashi A, Hayashi M, Terai Y, Ohmichi M, Lower FOXO3 mRNA expression in granulosa cells is involved in unexplained infertility, *J Obstet Gynaecol Res*, 2017, 43, 1021-1028. (IF=1.6, CI=12)
- 1 0 4 . Tanaka T, Terai Y, Maeda K, Ashihara K, Kogata Y, Maruoka H, Terada S, Yamada T, Ohmichi M, Intraperitoneal cytology after laparoscopic hysterectomy in patients with endometrial cancer: A retrospective observational study, *Medicine (Baltimore)*, 2017, 96, e7502. (IF=1.3, CI=5)
-

業 績 目 録

2. 論文 (原著)

No. 16

(英文：番号，著者名（掲載順に全員），論文題目，発行雑誌名，発行年（西暦），巻，頁，
(IF= , CI=) の順に記入してください。 corresponding author(s)には，著
者名の左に*を付してください。)

(和文：番号，論文題目，著者名（掲載順に全員），発行雑誌名，巻，頁，発行年（西暦）
の順に記入してください。） [総説，その他も同様 (IF, CI は不要)]

- 1 0 5. Saito N, Yamashita Y, Okuda K, Kokunai K, Terai Y, Ohmichi M, Comparison of the impact of laparoscopic endometriotic cystectomy and vaporization on postoperative serum anti-Mullerian hormone levels, Asian J Endosc Surg, 2018, 11, 23-29. (IF=0.9, CI=0)
- 1 0 6. Tanaka T, *Terai Y, Fujiwara S, Tanaka Y, Sasaki H, Tsunetoh S, Yamamoto K, Yamada T, Ohmichi M, The detection of sentinel lymph nodes in laparoscopic surgery can eliminate systemic lymphadenectomy for patients with early stage endometrial cancer, Int J Clin Oncol, 2018, 23, 305-313. (IF=2.4, CI=24)
- 1 0 7. Egawa-Takata T, Ueda Y, Morimoto A, Tanaka Y, Yagi A, Terai Y, Ohmichi M, Ichimura T, Sumi T, Murata H, Okada H, Nakai H, Mandai M, Matsuzaki S, Kobayashi E, Yoshino K, Kimura T, Saito J, Hori Y, Morii E, Nakayama T, Asai-Sato M, Miyagi E, Sekine M, Enomoto T, Horikoshi Y, Takagi T, Shimura K, Motivating Mothers to Recommend Their 20-Year-Old Daughters Receive Cervical Cancer Screening: A Randomized Study, J Epidemiol, 2018, 28, 156-160. (IF=3.7, CI=9)
- 1 0 8. Tanaka T, Sasaki S, Tsuchihashi H, Terai Y, Yamamoto K, Yamada T, Ohmichi M, Which is better for predicting pelvic lymph node metastases in patients with cervical cancer: Fluorodeoxyglucose-positron emission tomography/computed tomography or a sentinel node biopsy? A retrospective observational study, Medicine (Baltimore), 2018, 97, e0410. (IF=1.3, CI=12)
- 1 0 9. Kogata Y, Tanaka T, Ono YJ, Hayashi M, Terai Y, Ohmichi M, Foretinib (GSK1363089) induces p53-dependent apoptosis in endometrial cancer, Oncotarget, 2018, 9, 22769-22784. (IF=4.1, CI=7)
- 1 1 0. Yagi A, Ueda Y, Tanaka Y, Nakae R, Kakubari R, Morimoto A, Terai Y, Ohmichi M, Ichimura T, Sumi T, Murata H, Okada H, Nakai H, Matsumura N, Yoshino K, Kimura T, Saito J, Ikeda S, Asai-Sato M, Miyagi E, Sekine M, Enomoto T, Hirai K, Horikoshi Y, Takagi T, Shimura K, Time-dependent changes of the intention of mothers in Japan to inoculate their daughters with the HPV vaccine after suspension of governmental recommendation, Hum Vaccin Immunother, 2018, 8, 1-21. (IF=4.1, CI=12)
- 1 1 1. Suzuki Y, Ii M, Saito T, Terai Y, Tabata Y, Ohmichi M, Asahi M, Establishment of a novel mouse xenograft model of human uterine leiomyoma, Sci Rep, 2018, 8, 8872, (IF=3.8, CI=6)

業 績 目 録

2. 論文 (原著)

No. 17

(英文：番号，著者名（掲載順に全員），論文題目，発行雑誌名，発行年（西暦），巻，頁，
(IF= , CI=) の順に記入してください。 corresponding author(s)には，著
者名の左に*を付してください。)

(和文：番号，論文題目，著者名（掲載順に全員），発行雑誌名，巻，頁，発行年（西暦）
の順に記入してください。） [総説，その他も同様 (IF, CI は不要)]

-
- 1 1 2. Sano T, *Terai Y, Daimon A, Nunode M, Nagayasu Y, Okamoto A, Fujita D, Hayashi M, Ohmichi M, Recombinant human soluble thrombomodulin as an anticoagulation therapy improves recurrent miscarriage and fetal growth restriction due to placental insufficiency - The leading cause of preeclampsia, Placenta, 2018, 65, 1-6. (IF=3, CI=13)

 - 1 1 3. Tanaka T, Terai Y, Yamamoto K, Yamada T, Ohmichi M. The diagnostic accuracy of fluorodeoxyglucose-positron emission tomography/computed tomography and sentinel node biopsy in the prediction of pelvic lymph node metastasis in patients with endometrial cancer: A retrospective observational study. Medicine (Baltimore), 2018, 97, e12522. (IF=1.3, CI=17)

 - 1 1 4. Tanaka T, Terai Y, Fujiwara S, Tanaka Y, Sasaki H, Tsunetoh S, Yamamoto K, Yamada T, Narumi Y, Ohmichi M. Preoperative diffusion-weighted magnetic resonance imaging and intraoperative frozen sections for predicting the tumor grade in endometrioid endometrial cancer. Oncotarget, 2018, 9, 36575-36584. (IF=4.1, CI=0)

 - 1 1 5. Tanaka T, *Terai Y, Fujiwara S, Tanaka Y, Sasaki H, Tsunetoh S, Yamamoto K, Yamada T, Ohmichi M. Neoadjuvant intra-arterial chemotherapy using an original four-lumen double-balloon catheter for locally advanced uterine cervical cancer. Oncotarget, 2018, 9, 37766-37776. (IF=4.1, CI=0)

 - 1 1 6. Tanaka T, Terai Y, Ohmichi M. Association of matrix metalloproteinase-9 and decorin expression with the infiltration of cervical cancer. Oncol Lett. 2019, 17, 1306-1312. (IF=2.5, CI=9)

 - 1 1 7. Tsunetoh S, Terai Y, Takai M, Fujiwara S, Tanaka Y, Tanaka T, Sasaki H, Ibuki N, Ubai T, Yamamoto K, Azuma H, Ohmichi M. Urodynamic outcomes after pelvic nerve-sparing radical hysterectomy with or without neoadjuvant chemotherapy. Oncotarget, 2019, 10, 5207-5216. (IF=4.1, CI=0)

 - 1 1 8. Ashihara K, *Terai Y, Tanaka T, Tanaka Y, Fujiwara S, Maeda K, Tsunetoh S, Sasaki H, Hayashi M, Ohmichi M. Pharmacokinetic evaluation and antitumor potency of liposomal nanoparticle encapsulated cisplatin targeted to CD24-positive cells in ovarian cancer. Oncol Lett, 2020, 19, 1872-1880. (IF=2.5, CI=6)

 - 1 1 9. Nakamura M, Hayashi M, Konishi H, Nunode M, Ashihara K, Sasaki H, Terai Y, Ohmichi M. MicroRNA-22 enhances radiosensitivity in cervical cancer cell lines via direct inhibition of c-Myc binding protein, and the subsequent reduction in hTERT expression. Oncol Lett, 2020, 19, 2213-2222. (IF=2.5, CI=16)
-

業 績 目 録

2. 論文 (原著)

No. 18

(英文：番号，著者名（掲載順に全員），論文題目，発行雑誌名，発行年（西暦），巻，頁，
(IF= , CI=) の順に記入してください。 corresponding author(s)には，著
者名の左に*を付してください。)

(和文：番号，論文題目，著者名（掲載順に全員），発行雑誌名，巻，頁，発行年（西暦）
の順に記入してください。 [総説，その他も同様 (IF, CI は不要)]

- 1 2 0. Nakamura N, Terai Y, Nunode M, Kokunai K, Konishi H, Taga S, Nakamura M, Yoo M, Hayashi M, Yamashita Y, Ohmichi M. The differential expression of miRNAs between ovarian endometrioma and endometriosis-associated ovarian cancer. J Ovarian Res. 2020, 13, 51. (IF=3.8, CI=11)
- 1 2 1. Konishi H, Hayashi M, Taniguchi K, Nakamura M, Kuranaga Y, Ito Y, Kondo Y, Sasaki H, Terai Y, Akao Y, Ohmichi M. The therapeutic potential of exosomal miR-22 for cervical cancer radiotherapy. Cancer Biol Ther. 2020, 21, 1128-1135. (IF=4.4, CI=20)
- 1 2 2. Imafuku H, Tanimura K, Shi Y, Uchida A, Deguchi M, Terai Y. Clinical factors associated with a placenta accreta spectrum. Placenta 2021, 112, 180-184. (IF=3, CI=14)
- 1 2 3. Kakubari R, Egawa-Takata T, Ueda Y, Tanaka Y, Yagi A, Morimoto A, Terai Y, Ohmichi M, Ichimura T, Sumi T, Murata H, Okada H, Nakai H, Matsumura N, Yoshino K, Kimura T, Saito J, Kudo R, Sekine M, Enomoto T, Horikoshi Y, Takagi T, Shimura K. A survey of 20-year-old Japanese women: how is their intention to undergo cervical cancer screening associated with their childhood HPV vaccination status? Hum Vaccin Immunother. 2021,17(2), 434-442. (IF=4.1, CI=3)
- 1 2 4. Mabuchi S, Yamamoto M, Murata H, Yokoe T, Hamanishi J, Terai Y, Imatake H, Mabuchi Y, Mori T, Kitada F, Hashiguchi Y, Takahashi A, Fujiwara S, Naoi H, Matsubara S. Bevacizumab-associated events in Japanese women with cervical cancer: a multi-institutional survey of Obstetrical Gynecological Society of Kinki district, Japan. Int J Clin Oncol. 2021, 26(3), 598-605. (IF=2.4, CI=5)
- 1 2 5. Azumi M, Matsumoto M, Suzuki K, Sasaki R, Ueno Y, Nogami M, *Terai Y. PET/MRI is useful for early detection of pelvic insufficiency fractures after radiotherapy for cervical cancer. Oncol Lett. 2021, 22(5), 776. (IF=2.5, CI=4)
- 1 2 6. Hamanishi J, Takeshima N, Katsumata N, Ushijima K, Kimura T, Takeuchi S, Matsumoto K, Ito K, Mandai M, Nakai H, Sakuragi N, Watari H, Takahashi N, Kato H, Hasegawa K, Yonemori K, Mizuno M, Takehara K, Niikura H, Sawasaki T, Nakao S, Saito T, Enomoto T, Nagase S, Suzuki N, Matsumoto T, Kondo E, Sonoda K, Aihara S, Aoki Y, Okamoto A, Takano H, Kobayashi H, Kato H, Terai Y, Takazawa A, Takahashi Y, Namba Y, Aoki D, Fujiwara K, Sugiyama T, Konishi I. Nivolumab Versus Gemcitabine or Pegylated Liposomal Doxorubicin for Patients With Platinum-Resistant Ovarian Cancer: Open-Label, Randomized Trial in Japan (NINJA). J Clin Oncol. 2021, 39(33), 3671-3681. (IF=42.1, CI=90)

業 績 目 録

2. 論文 (原著)

No. 19

(英文：番号，著者名（掲載順に全員），論文題目，発行雑誌名，発行年（西暦），巻，頁，
(IF= , CI=) の順に記入してください。 corresponding author(s)には，著
者名の左に*を付してください。)

(和文：番号，論文題目，著者名（掲載順に全員），発行雑誌名，巻，頁，発行年（西暦）
の順に記入してください。） [総説，その他も同様 (IF, CI は不要)]

- 1 2 7. Ohta T, Nagase S, Okui Y, Enomoto T, Yamagami W, Mikami M, Tokunaga H, Ino K, Ushijima K, Shozu M, Tashiro H, Mandai M, Miyamoto S, Morishige KI, Yoshida Y, Yoshino K, Saito T, Kobayashi E, Kobayashi H, Takekuma M, Terai Y, Fujii T, Kanao H, Aoki D, Katabuchi H, Yaegashi N. Surveillance of radical hysterectomy for early-stage cervical cancer in the early experienced period of minimally invasive surgery in Japan Int J Clin Oncol 2021, 26(12), 2318-2330. (IF=2.4, CI=4)
- 1 2 8. Kokunai K, Yamashita Y, Inoue T, Taguchi S, Tsujimoto Y, Hirao K, Yamamoto S, Nakamura N, Terai Y, Ohmichi M. Outcome of in vitro fertilization cycles with automatic time-lapse instrumentation combined with the early embryo viability assessment score. J Obstet Gynaecol Res. 2021, 47(7), 2387-2393. (IF=1.6, CI=1)
- 1 2 9. Togami S, Kobayashi H, Niikura H, Shimada M, Susumu N, Tanaka T, Terai Y, Nagai T, Baba T, Yahata H, Yamagami W, Yamaguchi K, Yamashita T, Yaegashi N, Katabuchi H, Aoki D. Survey of the clinical practice pattern of using sentinel lymph node biopsy in patients with gynecological cancers in Japan: the Japan Society of Gynecologic Oncology study Int J Clin Oncol. 2021, 26(5), 971-979. (IF=2.4, CI=4)
- 1 3 0. Tanaka T, Yamashita S, Kuroboshi H, Kamibayashi J, Sugiura A, Yoriki K, Mori T, Tanaka K, Nagashima A, Maeda M, Kamiura S, Mizuno Y, Ohtake N, Ichimura T, Kikuchi T, Nobuta Y, Amano T, Matsumura N, Nakai H, Kobayashi E, Kamei Y, Ukita M, Hamanishi J, Hirayama J, Mabuchi Y, Kato S, Fujita H, Kiyota A, Koyama S, Fukui Y, Kimura M, Takahashi R, Terai Y, Suruga M, Kawanishi M, Nishioka K, Ohmichi M. Oncologic outcomes in elderly patients who underwent hysterectomy for endometrial cancer: a multi-institutional survey in Kinki District, Japan. Int J Clin Oncol. 2022;27(6):1084-1092. (IF=2.4, CI=2)
- 1 3 1. Terada S, *Terai Y, (Shinichi Terada and Yoshito Terai contributed equally to this work) Tanaka Y, Tanaka T, Tsunetoh S, Ohmichi M. Postsurgical urodynamic study of total laparoscopic nerve-sparing radical hysterectomy for uterine cervical cancer. J Obstet Gynaecol Res. 2022;48(11):2863-2871. (IF=1.6, CI=0)
- 1 3 2. Dai Y, Kawaguchi T, Nishio M, Otani J, Tashiro H, Terai Y, Sasaki R, Maehama T, Suzuki A. The TIGD5 gene located in 8q24 and frequently amplified in ovarian cancers is a tumor suppressor. Genes Cells. 2022;27(11):633-642. (IF=1.3, CI=0)

業 績 目 録

2. 論文 (原著)

No. 20

(英文: 番号, 著者名 (掲載順に全員), 論文題目, 発行雑誌名, 発行年 (西暦), 巻, 頁, (IF= , CI=) の順に記入してください。 corresponding author(s)には, 著者名の左に*を付してください。)

(和文: 番号, 論文題目, 著者名 (掲載順に全員), 発行雑誌名, 巻, 頁, 発行年 (西暦) の順に記入してください。) [総説, その他も同様 (IF, CI は不要)]

- 1 3 3. Hiramatsu K, Ueda Y, Yagi A, Morimoto A, Egawa-Takata T, Nakagawa S, Kobayashi E, Kimura T, Kimura T, Minekawa R, Hori Y, Sato K, Morii E, Nakayama T, Tanaka Y, Terai Y, Ohmichi M, Ichimura T, Sumi T, Murata H, Okada H, Nakai H, Matsumura N, Mandai M, Saito J, Horikoshi Y, Takagi T, Enomoto T, Shimura K. The efficacy of human papillomavirus vaccination in young Japanese girls: the interim results of the OCEAN study. Hum Vaccin Immunother. 2022;18(1):1951098. (IF=4.1, CI=2)
- 1 3 4. Yoshida H, Machida H, Matsuo K, Terai Y, Fujii T, Mandai M, Kawana K, Kobayashi H, Mikami M, Nagase S. Trend and characteristics of minimally invasive surgery for patients with endometrial cancer in Japan. J Gynecol Oncol. 2023, 34, e56. (IF=3.4, CI=1)
- 1 3 5. Takahashi R, Kamizaki K, Yamanaka K, Terai Y, Minami Y. Expression of Ferredoxin1 in cisplatin-resistant ovarian cancer cells confers their resistance against ferroptosis induced by cisplatin. Oncol Rep. 2023, 49, 124. (IF=3.8, CI=3)
- 1 3 6. Toyoshima M, Kobayashi E, Terai Y, Yamashita T, Terao Y, Nomura H, Asada H, Hoshiba T, Mikami M, Mandai M, Wada-Hiraike O, Akira S, Osuga Y, Fujii T; Committee for Gynecologic Oncology Surgery, Japan Society of Gynecologic and Obstetric Endoscopy and Minimally Invasive Therapy (JSGOE). Questionnaire survey regarding current status of minimally invasive surgery for endometrial cancer in Japan: A cross-sectional survey for JSGOE members. J Obstet Gynaecol Res. 2023, 49, 2370-2378. (IF=1.6, CI=1)
- 1 3 7. Yamanaka K, Washio K, Uchida A, Sasagawa Y, Nishimoto M, Yamasaki Y, Nagamata S, *Terai Y. Rapid reduction of adenomyosis coexisting with leiomyoma volume during treatment with Relugolix. Gynecol Endocrinol. 2023, 39, 2237121. (IF=2, CI=3)
- 1 3 8. Imafuku H, Tanimura K, Masuko N, Tomimoto M, Shi Y, Uchida A, Deguchi M, Kazumichi Fujioka K, Yamamoto A, Yoshino K, Hirota Y, Ogawa W, Terai Y. Advantages of sensor-augmented insulin pump therapy for pregnant women with type 1 diabetes mellitus. J Diabetes Investig. 2023, 14, 1383-1390. (IF=3.1, CI=1)
- 1 3 9. Masuko N, Tanimura K, Tanaka M, Uchida A, Takahashi R, Imafuku H, Deguchi M, Terai Y. HELLP Syndrome at 20 Gestational Weeks Managed Using the Mississippi Protocol: A Case Report. Kobe J Med Sci. 2024, 70, E22-E25. (IF=0, CI=0)
-

業 績 目 録

2. 論文 (原著)

No. 21

(英文：番号，著者名（掲載順に全員），論文題目，発行雑誌名，発行年（西暦），巻，頁，
(IF= , CI=) の順に記入してください。 corresponding author(s)には，著
者名の左に＊を付してください。)

(和文：番号，論文題目，著者名（掲載順に全員），発行雑誌名，巻，頁，発行年（西暦）
の順に記入してください。） [総説，その他も同様 (IF, CI は不要)]

-
- 1 4 0. Yoshida H, Matsuo K, Machida H, Matsuzaki S, Maeda M, Terai Y, Fujii T, Mandai M, Kawana K, Kobayashi H, Mikami M, Nagase S. Intrauterine manipulator use during laparoscopic hysterectomy for endometrial cancer: association for pathological factors and oncologic outcomes. *Int J Gynecol Cancer*. 2024, 34, 510-518. (IF=4.1, CI=2)
- 1 4 1. Shigeta S, Konno Y, Terai Y, Morisada T, Tokunaga H, Baba T, Kobayashi Y, Nagase S. A qualitative systematic review of the significance of adjuvant therapy in patients with low-risk endometrial cancer presenting positive peritoneal cytology: a relevant study to the guideline update for endometrial cancer by the Japan society of gynecologic oncology guideline committee. *Jpn J Clin Oncol*. 2024, 54, 217-220. (IF=1.9, CI=0)
- 1 4 2. Yatabe Y, Hanaoka M, Hanazawa R, Hirakawa A, Mukai T, Kimura K, Yamanoi K, Kono J, Yokota M, Takahashi H, Kobayashi A, Kobayashi K, Ichikawa N, Yasui M, Nakane K, Yamamoto M, Takenaka A, Nakamura Y, Takemasa I, Yabusaki N, Akamoto S, Tatarano S, Murata K, Manabe T, Fujimura T, Kawamura M, Egi H, Yamaguchi S, Terai Y, Inoue S, Ito A, Kinugasa Y. Robotic versus open and laparoscopic pelvic exenterations for pelvic cancer: a multicenter propensity-matched analysis in Japan. *Surg Endosc*. 2024. 38, 4390-4401. (IF=2.4, CI=0)
-

業 績 目 録

2. 論文 (原著)

No. 22

(英文：番号，著者名 (掲載順に全員)，論文題目，発行雑誌名，発行年 (西暦)，巻，頁，
(IF= ， CI=) の順に記入してください。 corresponding author(s)には，著
者名の左に*を付してください。)

(和文：番号，論文題目，著者名 (掲載順に全員)，発行雑誌名，巻，頁，発行年 (西暦)
の順に記入してください。) [総説，その他も同様 (IF, CI は不要)]

(和文)

1. 子宮内膜症の形態と機能 一組織発生に関連して一，植木 實，鶴長建充，植田政嗣，
山下能毅，寺井義人，御前 治，山下英俊，杉本 修，大槻勝紀，エンドメトリオージ
ス研究会，15 巻，22-28，1994
2. 子宮平滑筋腫および境界病変の病理、組織学的検討 一良・悪性の判定基準を中心に一，
山田隆司，植木 實，清木康雄，岡崎 審，寺井義人，山下能毅，産婦人科の進歩，46
巻，464-467，1994
3. 妊娠中の卵巣腫瘍，植田政嗣，植木 實，岡村信介，後藤真樹，亀谷英輝，岩井恵美，
熊谷広治，植木 健，高原得栄，池田 篤，寺井義人，山下能毅，産婦人科の進歩，47
巻，184-187，1995
4. 子宮頸部腺異形成に関する病理学的検討 一前癌病変としての位置付け一，岡本吉明，植
木 健，熊谷広治，山下能毅，寺井義人，後藤真樹，植田政嗣，植木 實，杉本 修，
産婦人科の進歩，47 巻，331-335，1995
5. 卵巣癌再発症例の検討 一癌再発の予知と早期発見一，山田隆司，寺井義人，山下能毅，
植木 實，杉本 修，産婦人科の進歩，47 巻，594-596，1995
6. 腹腔鏡下手術における回収式自己血輸血の検討，山田隆司，寺井義人，山下能毅，奥田
喜代司，杉本 修，自己血輸血，8 巻，77-79，1995
7. 婦人科手術における貯血式自己血輸血の検討，寺井義人，山田隆司，山下能毅，植木 實，
杉本 修，自己血輸血，8 巻，145-148，1995
8. 自己血輸血婦人科手術における術中自己血回収装置(cell Saver)の使用経験，山下能毅，
山田隆司，寺井義人，後藤真樹，杉本 修，自己血輸血，8 巻，181-184，1995
9. 産科領域における貯血式自己血輸血の検討，寺井義人，山田隆司，金 信行，岡本由記
子，鶴長建充，清木康雄，植木 實，産婦人科の進歩，48 巻，217-219，1996
10. 当科における卵巣腫瘍保存手術の検討，山田隆司，寺井義人，山下能毅，植木 實，産
婦人科の進歩，48 巻，457-459，1996
11. 分娩時出血に対する貯血式自己血輸血の検討，寺井義人，山田隆司，山下能毅，植木 實，
自己血輸血，9 巻，261-265，1997
12. 子宮体癌術後の再発・死亡例の臨床的検討，植木 健，岡本吉明，寺井義人，熊谷広治，
猪木千春，植田政嗣，植木 實，産婦人科の進歩，50 巻，319-322，1998

業 績 目 録

2. 論文 (原著)

No. 23

(英文: 番号, 著者名 (掲載順に全員), 論文題目, 発行雑誌名, 発行年 (西暦), 巻, 頁, (IF= , CI=) の順に記入してください。 corresponding author(s)には, 著者名の左に*を付してください。)

(和文: 番号, 論文題目, 著者名 (掲載順に全員), 発行雑誌名, 巻, 頁, 発行年 (西暦) の順に記入してください。 [総説, その他も同様 (IF, CI は不要)])

-
- 1 3. 子宮頸癌の浸潤動態と増殖因子, 植田政嗣, 寺井義人, 植木 健, 熊谷広治, 岡本吉明, 植木 實, 日本婦人科腫瘍学会誌日本婦人科病理・コルポスコピー学会記録 (シンポジウム), 16 巻, 162-171, 1998
 - 1 4. 当科における卵巣癌の治療とその予後, 寺井義人, 熊谷広治, 岡本吉明, 植田政嗣、植木 實, 大阪医学, 32 巻, 1, 1998
 - 1 5. 境界病変・初期 (I 期) 癌の姑息的治療術後化学療法の影響, 寺井義人, 産婦人科の進歩, 51 巻, 26-31, 1999
 - 1 6. 卵巣初期癌の治療法と予後についての検討, 寺井義人, 植田政嗣, 岡本吉明, 熊谷広治, 植木 健, 植木 實, 産婦人科の進歩, 51 巻, 66-68, 1999
 - 1 7. 進行卵巣癌における Second Look Operation(SLD)の意義, 寺井義人, 植木 健, 清木康雄, 岡本吉明, 植田政嗣, 植木 實, 産婦人科の進歩, 51 巻, 368-371, 1999
 - 1 8. 子宮非上皮性腫瘍の診断と治療 当科における子宮体部肉腫の臨床的検討, 出馬晋二, 細谷俊光, 金村昌徳, 神田宏治, 寺井義人, 熊谷広治, 植木 健, 鶴長建充, 清木康雄, 猪木千春, 岡本吉明, 植田政嗣, 植木 實, 産婦人科の進歩, 52 巻, 510-512, 2000
 - 1 9. 婦人科癌細胞における dihydropyrimidine dehydrogenase の発現と遺伝子変異, 熊谷広治, 植田政嗣, 神田宏治, 植木 健, 寺井義人, 山下能毅, 植木 實, 日本婦人科腫瘍学会誌, 20 巻, 79-84, 2002
 - 2 0. 腫瘍内血管新生制御に関する研究, 植木 實, 植田政嗣, 寺井義人, 日本婦人科腫瘍学会誌, 20 巻, 222-228, 2002.
 - 2 1. 子宮体癌化学療法の効果—放射線療法との比較を含めて—当科における子宮体癌術後療法の変遷とその成績について, 植木 健, 神田宏治, 寺井義人, 熊谷広治, 植田政嗣, 植木 實, 日本婦人科腫瘍学会誌, 20 巻, 235-240, 2002
 - 2 2. 腫瘍内血管新生制御に関する研究, 植木 實, 植田政嗣, 寺井義人, 日本婦人科腫瘍学会誌, 20 巻, 222-238, 2002
 - 2 3. 難治性子宮頸・体癌の病態と治療 —子宮上皮性・間葉性混合腫瘍の病理—, 森 浩志, 山田隆司, 寺井義人, 植田政嗣, 植木 實, 日本婦人科腫瘍学会誌, 20 巻, 405-409, 2002
 - 2 4. 前置胎盤症例における自己血輸血の有用性について, 東山俊祐, 佐久間航、東尾聡子, 折野一郎, 山下能毅, 寺井義人, 鈴木佳彦, 亀谷英輝, 植木 實, 産婦人科の進歩, 54 巻, 148-150, 2002
-

業 績 目 録

2. 論文 (原著)

No. 24

(英文：番号，著者名 (掲載順に全員)，論文題目，発行雑誌名，発行年 (西暦)，巻，頁，
(IF= ， CI=) の順に記入してください。 corresponding author(s)には，著
者名の左に*を付してください。)

(和文：番号，論文題目，著者名 (掲載順に全員)，発行雑誌名，巻，頁，発行年 (西暦)
の順に記入してください。) [総説，その他も同様 (IF, CI は不要)]

-
- 2 5. 当科における卵巣腫瘍合併妊娠の管理，山口裕之，寺井義人，植木 健，植田政嗣，植木 實，産婦人科の進歩，54 巻，386-389，2002
- 2 6. 子宮内膜症合併不妊の卵巣顆粒膜細胞における VGEF mRNA 発現の検討，山下能毅，植田政嗣，寺井義人，後山尚久，植木 實，産婦人科の進歩，55 巻，83-84，2002
- 2 7. 進行子宮頸癌腺癌に対する動注化学療法，植木 健，山口裕之，神田宏治，寺井義人，熊谷広治
- 2 8. 子宮内膜癌手術例への補助化学療法の成績と予後因子の解析，神田宏治，植田政嗣，植木 健，熊谷広治，寺井義人，山下光里，植木 實，産婦人科の進歩，55 巻，332-334，2003
- 2 9. 難治性卵巣癌に対する取り組み，竹内聡，宮本岳雄，左右田裕生，鈴木美奈子，山辺晋吾，寺井義人，植田政嗣，植木 實，濱名伸也，本山 寛，丸尾 猛，産婦人科の進歩，56 巻，310，2004
- 3 0. 子宮頸部悪性腺腫の診断について，山口裕之，寺井義人，植木 健，明瀬大輔，出馬晋二，植田政嗣，山本和宏，神田宏治，植木 實，産婦人科の進歩，56 巻，116-118，2004
- 3 1. 当科における再発卵巣癌治療の検討，明瀬大輔，寺井義人，平井隆次，山口裕之，植田政嗣，植木 實，産婦人科の進歩，56 巻，318-320，2004
- 3 2. 当科における子宮体部非上皮性悪性腫瘍の臨床的検討，西山浩司，寺井義人，山口裕之，神田宏治，金村昌徳，植田政嗣，植木 實，産婦人科の進歩，56 巻，501-504，2004
- 3 3. 卵巣癌の肝転移における DSM 併用肝動脈注療法は有用か？山本和宏，有本 博，檜林勇，寺井義人，植田政嗣，植木 實，Radiology Frontier，7 巻，153-155，2004
- 3 4. 過多月経を主訴とする子宮筋腫合併例に対する子宮鏡を併用したマイクロ波子宮内膜凝固性法の検討，莊園ヘキ子，山口裕之，中井 豪，竹原幹雄，寺井義人，猪木千春，亀谷英輝，植田政嗣，植木 實，産婦人科の進歩，58 巻，184-186，2006
- 3 5. ホルモン補充療法中の乳腺画像所見 マンモグラフィ・超音波検査併用検診例での検討一，藤野久仁子，榎本智子，寺井義人，後山尚久，植木 實，日本乳癌検診学会誌，15 巻，284-288，2006
- 3 6. 卵巣チョコレート嚢胞に対する保存手術と GnRH アゴニスト併用療法の治療成績，竹原幹雄，植田政嗣，寺井義人，山下能毅，植木 實，HORMONE FRONTIER IN GYNECOLOGY，13 巻，85-89，2006
-

業 績 目 録

2. 論文 (原著)

No. 25

(英文: 番号, 著者名 (掲載順に全員), 論文題目, 発行雑誌名, 発行年 (西暦), 巻, 頁, (IF= , CI=) の順に記入してください。 corresponding author(s)には, 著者名の左に*を付してください。)

(和文: 番号, 論文題目, 著者名 (掲載順に全員), 発行雑誌名, 巻, 頁, 発行年 (西暦) の順に記入してください。) [総説, その他も同様 (IF, CI は不要)]

-
- 3 7. 当科における若年子宮頸部前癌病変についての後方視的検討, 西山浩司, 金村昌徳, 田中良道, 山口裕之, 出馬晋二, 恒遠啓示, 安田勝行, 竹原幹雄, 寺井義人, 大道正英, 産婦人科の進歩, 59 巻, 92-94, 2007
- 3 8. 妊婦に対する子宮頸部円錐切除症例の臨床的検討, 田中良道, 恒遠啓示, 西山浩司, 山口裕之, 出馬晋二, 金村昌徳, 山下能毅, 寺井義人, 亀谷英輝, 大道正英, 産婦人科の進歩, 59 巻, 153-155, 2007.
- 3 9. 当科における子宮内膜癌と子宮内膜異型増殖症に対する MPA 療法の治療成績, 安田勝行, 猪木千春, 田中良道, 恒遠啓示, 佐々木浩, 竹原幹雄, 金村昌徳, 寺井義人, 大道正英, 産婦人科の進歩, 59 巻, 287-289:2007
- 4 0. 当科における再発上皮性卵巣癌の治療成績, 田中良道, 関島龍治, 恒遠啓示, 佐々木浩, 竹原幹雄, 金村昌徳, 寺井義人, 大道正英, 産婦人科の進歩, 61 巻, 17-20, 2009
- 4 1. 当科における粘液性腺癌の治療成績, 佐々木浩, 関島龍治, 田中良道, 恒遠啓示, 金村昌徳, 寺井義人, 大道正英, 産婦人科の進歩, 62 巻, 32-34, 2010
- 4 2. 子宮内膜症に対するジェノゲストの術前投与の試み, 奥田喜代司, 湯口裕子, 林 篤史, 田辺晃子, 荻田正子, 中村嘉宏, 檜原敬二郎, 山下能毅, 寺井義人, 大道正英, HORMONE FRONTIER IN GYNECOLOGY, 17 巻, 181-184, 2010
- 4 3. 婦人科がん診断における PET-CT の意義, 恒遠啓示, 寺井義人, 藤原聡枝, 田中良道, 関島龍治, 佐々木浩, 金村昌徳, 大道正英, 産婦人科の進歩, 62 巻, 255-257, 2010
- 4 4. 子宮内膜症に卵管・卵巣膿瘍を併発した症例に対する腹腔鏡下手術 (卵巣チョコレート嚢胞の機能温存外科治療のコツ), 奥田喜代司, 吉田陽子, 関島龍治, 荻田正子, 中村嘉宏, 檜原敬二郎, 林 篤史, 林 美佳, 山下能毅, 寺井義人, 大道正英, 日本エンドメトリオーシス学会会誌, 31 巻, 55-58, 2010
- 4 5. 婦人科がん克服女性の骨密度・動脈硬化に関する検討, 田辺晃子, 関島龍治, 西尾桂奈, 丸岡理紗, 木村侑子, 篠原真弓, 井川佳世恵, 檜原敬二郎, 金村昌徳, 寺井義人, 大道正英, Osteoporosis Japan, 18 巻, 471-474, 2010
- 4 6. 進行子宮頸癌患者に対する術前化学療法 (neoadjuvant chemotherapy:NAC) の治療成績, 川口浩史, 金村昌徳, 芦原敬允, 劉 昌恵, 前田和也, 西尾桂奈, 藤原聡枝, 兪 史夏, 田中良道, 関島龍治, 恒遠啓示, 佐々木浩, 寺井義人, 大道正英, 産婦人科の進歩, 63 巻, 356-358, 2011
-

業 績 目 録

2. 論文 (原著)

No. 26

(英文: 番号, 著者名 (掲載順に全員), 論文題目, 発行雑誌名, 発行年 (西暦), 巻, 頁, (IF= , CI=) の順に記入してください。 corresponding author(s)には, 著者名の左に*を付してください。)

(和文: 番号, 論文題目, 著者名 (掲載順に全員), 発行雑誌名, 巻, 頁, 発行年 (西暦) の順に記入してください。) [総説, その他も同様 (IF, CI は不要)]

-
47. 子宮体がんにおける筋層浸潤の予後への影響とリンパ節郭清の意義, 藤原聡枝, 高井雅聡, 兪 史夏, 田中良道, 恒遠啓示, 佐々木浩, 金村昌徳, 寺井義人, 大道正英, 産婦人科の進歩, 64 巻, 364-366, 2012
48. 卵巣線維腫に対する腹腔鏡下手術 単孔式の有用性, 林 篤史, 奥田喜代司, 佐野 匠, 古形祐平, 中村嘉宏, 吉田陽子, 林 美佳, 山下能毅, 寺井義人, 大道正英, 日本産科婦人科内視鏡学会雑誌, 28 巻, 433-437, 2012
49. 子宮内膜症に対する細径腹腔鏡下手術, 永易洋子, 奥田喜代司, 恒藤啓示, 中村嘉宏, 吉田陽子, 林 篤史, 林 美佳, 山下能毅, 寺井義人, 大道正英, 日本産科婦人科内視鏡学会雑誌, 28 巻, 621-626, 2012
50. チョコレート嚢胞再発例に対するジェノゲスト療法, 中井香奈, 奥田喜代司, 斉藤奈津穂, 湯口裕子, 吉田陽子, 寺井義人, 山下能毅, 大道正英, 日本エンドメトリオーシス学会会誌, 34 巻, 151-153, 2013
51. 当院における前置癒着胎盤の管理について, 神吉一良, 藤田太輔, 太田沙緒里, 澤田雅美, 中井香奈, 永易洋子, 船内祐樹, 丸岡 寛, 伊藤理恵, 宮本良子, 鈴木裕介, 渡辺綾子, 加藤壮介, 稲垣文香, 湯口裕子, 荘園ヘキ子, 金村昌徳, 寺井義人, 亀谷英輝, 大道正英, 産婦人科の進歩 65 巻, 339-342 2013
52. 子宮内膜症に対する細径腹腔鏡下手術, 永易洋子, 奥田喜代司, 恒藤啓示, 中村嘉宏, 吉田陽子, 林 篤史, 林 美佳, 山下能毅, 寺井義人, 大道正英, 日本産科婦人科内視鏡学会雑誌, 28 巻, 621-626, 2013
53. 進行卵巣癌 NAC 前の診断における腹腔鏡下手術の有用性について, 田中良道, 寺井義人, 寺田信一, 小西博巳, 丸岡 寛, 斎藤奈津穂, 福田真実子, 川口浩史, 比嘉涼子, 中村路彦, 高井雅聡, 藤原聡枝, 兪 史夏, 田中智人, 恒遠啓示, 金村昌徳, 大道正英, 産婦人科の進歩, 65 巻, 461-464, 2013
54. 骨盤臓器脱患者における過活動膀胱罹患の実態調査と POP 治療法別にみた OAB 改善成績の検討(The prevalence of overactive bladder symptoms in prolapse patients, and the changes after treatment for pelvic organ prolapse, 広田千賀, 田辺晃子, 高井雅聡, 中村起代子, 寺井義人, 大道正英, 日本女性医学学会雑誌, 21 巻, 114-119, 2014
55. 子宮内膜症性嚢胞から発症したと考えられた卵巣癌 4 症例の検討, 田吹邦雄, 寺井義人, 田中良道, 佐々木 浩, 恒遠啓示, 金村昌徳, 大道正英, 産婦人科の進歩, 66 巻, 155-162, 2014
56. 妊娠中の子宮頸部円錐切除術の留置点について, 芦原敬允, 田中良道, 前田和也, 中村路彦, 藤原聡枝, 兪 史夏, 田中智人, 恒遠啓示, 金村昌徳, 寺井義人, 大道正英, 産婦人科の進歩, 66 巻, 303-307, 2014
-

業 績 目 録

2. 論文 (原著)

No. 27

(英文: 番号, 著者名 (掲載順に全員), 論文題目, 発行雑誌名, 発行年 (西暦), 巻, 頁, (IF= , CI=) の順に記入してください。 corresponding author(s)には, 著者名の左に*を付してください。)

(和文: 番号, 論文題目, 著者名 (掲載順に全員), 発行雑誌名, 巻, 頁, 発行年 (西暦) の順に記入してください。) [総説, その他も同様 (IF, CI は不要)]

-
57. 当院における特発性血小板減少性紫斑病合併妊娠の検討, 穀内香奈, 大門篤史, 藤田太輔, 箕浦 彩, 岡本敦子, 田吹邦雄, 田中健太郎, 佐野 匠, 渡辺綾子, 鈴木裕介, 神吉一良, 寺井義人, 大道正英, 臨床婦人科産科, 69 巻, 353-357, 2015
58. 若年初期卵巣癌患者に対する妊孕性温存を目的とした staging laparotomy. 古形祐平, 佐々木浩, 橋田宗祐, 芦原敬允, 前田和也, 藤原聡枝, 兪 史夏, 田中智人, 田中良道, 恒遠啓示, 金村昌徳, 寺井義人, 大道正英, 産婦人科の進歩, 67 巻, 340-343, 2015
59. 柴苓湯の肥厚性瘢痕形成に対する効果 TGF- β シグナルを介したメカニズム, 荘園ヘキ子, 田辺晃子, 藤田太輔, 山下能毅, 寺井義人, 亀谷英輝, 大道正英, 瘢痕・ケロイド治療ジャーナル, 9 巻, 1-7, 2015
60. 子宮内膜症性嚢胞の内壁焼灼術は卵巣予備能の低下を回避できるか? 斉藤奈津穂, 奥田喜代司, 穀内香奈, 深澤祐子, 中村容子, 山下能毅, 寺井義人, 大道正英, 産婦人科の実際, 64 巻, 1949-1955, 2015
61. 当科における再発卵巣癌に対するベバシズマブ併用化学療法 of 検討, 田中良道, 寺井義人, 芦原敬允, 前田和也, 兪 史夏, 藤原聡枝, 田中智人, 佐々木浩, 恒遠啓示, 金村昌徳, 大道正英, 産婦人科の進歩, 68 巻, 284-287, 2016
62. 卵巣チョコレート嚢胞の術後再発, 劉 昌恵, 林 篤史, 中村真由美, 芦原敬允, 小野賀大, 林 正美, 寺井義人, 大道正英, 産婦人科の進歩, 68 巻, 350-353, 2016
63. ハイリスク症例への対応 肥満症例への対応 腹腔鏡下手術 肥満子宮体がんに対する腹腔鏡下手術の安全性評価の検討, 寺井義人, 橋田宗祐, 芦原敬允, 藤原聡枝, 田中良道, 田中智人, 佐々木浩, 恒遠啓示, 大道 正英, 産婦人科手術, 28 巻, 67-72, 2017
64. 臨床経験 45 歳以上の超高齢妊娠における周産期予後についての検討, 永易洋子, 藤田太輔, 大門篤史, 布出実紗, 岡本敦子, 佐野 匠, 鈴木裕介, 寺井義人, 大道正英, 産婦人科の実際, 67 巻, 335-340, 2018
65. 臨床経験 当院における腹式広汎子宮頸部摘出術後の生殖補助医療についての検討, 小西博巳, 寺井 義人, 古形 祐平, 藤原 聡枝, 田中 良道, 田中 智人, 藤田 太輔, 林 正美, 大道 正英, 産婦人科の実際 67 巻, 1047-1051, 2018
66. 臨床経験 当院における腹式広汎子宮頸部摘出術後の生殖補助医療についての検討, 小西博巳, 寺井 義人, 古形 祐平, 藤原 聡枝, 田中 良道, 田中 智人, 藤田 太輔, 林 正美, 大道 正英, 産婦人科の実際 67 巻, 1047-1051, 2018
-

業 績 目 録

2. 論文 (原著)

No. 28

(英文：番号，著者名（掲載順に全員），論文題目，発行雑誌名，発行年（西暦），巻，頁，
(IF= , CI=) の順に記入してください。 corresponding author(s)には，著
者名の左に*を付してください。)

(和文：番号，論文題目，著者名（掲載順に全員），発行雑誌名，巻，頁，発行年（西暦）
の順に記入してください。） [総説，その他も同様 (IF, CI は不要)]

-
- 6 7. 卵管留水腫に対する腹腔鏡下卵管切除術前後の卵巢機能と術後妊娠率，穀内香奈，奥田喜代司，中村奈津穂，田中理恵，恒遠啓示，林正美，寺井義人，大道正英，産婦人科の進歩 71 巻，67-73, 2019.
- 6 8. 卵巢癌・原発性腹膜癌の術前化学療法時の診断において，腹腔鏡下生検と体腔液 Cell block 法の比較検討。高橋良輔，清水真帆，長又哲史，松本培世，村田友香，鈴木嘉穂，出口雅士，寺井義人，産婦の進歩、72 巻：211-215、2020
- 6 9. ここが知りたい最新の治療戦略《初回治療》 化学療法先行後の腫瘍減量術(NAC+IDS)の適応は？ 鈴木 嘉穂，寺井義人，臨床婦人科産科：73 巻 363-368, 2020
- 7 0. 【婦人科腫瘍における低侵襲手術について】子宮体がんに対する低侵襲手術(解説/特集)
寺井義人、日本産科婦人科学会雑誌：72 巻 652-658, 2020
- 7 1. 子宮頸部腫瘍 神経内分泌腫瘍 長又哲史，寺井義人 【Rare tumor の最新知識】 産婦人科の実際 70 巻 867-872, 2021
- 7 2. 当院における卵巢癌の維持療法 安積麻帆，山崎友維，山中啓太郎，鷺尾佳一，西本昌司，笹川勇樹，長又哲史，寺井義人 産婦人科の進歩 74 巻 504-508,2022
- 7 3. 同一起源と考えられた腺癌と扁平上皮癌による子宮頸がんの衝突がん 栖田園子，高橋良輔，安積麻帆，鷺尾佳一，清水真帆，長又哲史，村田友香，寺井義人 臨床婦人科産科 76 巻 1153-1156, 2022
- 7 4. 精神疾患合併妊娠の妊娠中・産後増悪誘因ならびに周産期事象に与える影響 喜多ともみ 谷村憲司，施 裕徳，内田明子，今福仁美，出口雅士，蓬萊 政，寺井義人 産婦人科の進歩 75 巻 16-25, 2022
- 7 5. Cadaver を用いた腹腔鏡下婦人科悪性腫瘍手術トレーニングの有用性 長又哲史 安積麻帆，鷺尾佳一，笹川勇樹，西本昌司，山崎友維，清水貴大，吉川知志，仁田亮，寺井義人 日本産科婦人科内視鏡学会雑誌 38 巻 2 号 1-5. 2022
- 7 6. 近畿圏内の性分化に関する異常を呈する女性の調査報告 今福仁美，清水真帆，村田 友香，寺井義人，日本女性医学学会雑誌 30 巻 3 号 386-389, 2023
-

業 績 目 録

3. 論文 (総説)

No. 29

(英文)

なし

(和文)

1. 女性性器がんの制がん剤療法の副作用を克服する消化器症状、肝・腎障害、植木 實，山下能毅，寺井義人，他，産婦人科の世界，48 巻，1-8，1996
2. 周産期管理の実際 妊娠 妊娠異常 婦人科腫瘍合併妊産婦の取り扱い方，寺井義人，植木 健，植木 實，産婦人科治療，78 巻，741-746，1999
3. 女性性器癌の集学的臨床における新しい視点 卵巣癌 卵巣癌における腫瘍内血管密度と予後，寺井義人，植木 實，産婦人科の世界，51 巻，427-431，1999.
4. 卵巣がんと闘うために 総論 リスクファクター 環境因子，植田政嗣，寺井義人，植木 實，臨床婦人科産科，53 巻，776-778，1999
5. 血管新生因子と腫瘍発育，植田政嗣，寺井義人，植木 實，産婦人科の進歩，52 巻，565-566，2000
6. 肺癌 抗血管新生作用を持つ薬剤の現状 一時の熱気が過ぎ去った後の着実な開発状況および抗癌剤を主として既存薬剤の応用，高橋博人，佐川元保，佐藤雅美，桜田 晃，相川広一，遠藤千頭，岡田克典，松村輔二，谷田達男，斎藤泰紀，近藤 丘，寺井義人，安部まゆみ，佐藤靖史，藤村重文，呼吸，19 巻，912-920，2000
7. 産婦人科リスクマネージメント 抗癌剤使用時のリスクマネージメント，寺井義人，植木 實，産婦人科の実際，50 巻，1343-1351，2001
8. どこまで可能か 悪性腫瘍治療と妊孕能温存 卵巣癌，寺井義人，植田政嗣，妊娠中に診断された卵巣癌の取り扱い，臨床婦人科産科，56 巻，1004-1008，2002.
9. 難治性子宮頸・体癌の病態と治療 子宮頸癌の浸潤・転移とその制御，植田政嗣，寺井義人，山下能毅，熊谷広治，植木 健，神田宏治，山口裕之，明瀬大輔，洪 耀欽，植木 實，日本婦人科腫瘍学会雑誌，20 巻，395-404，2002
10. 進行子宮頸癌に対する治療法のスタンダライゼーションを求めて，寺井義人，植木 健，明瀬大輔，山口裕之，神田宏治，熊谷広治，植田政嗣，植木 實，山本和宏，檜林 勇，進行子宮頸癌に対する動注化学療法の効果と問題点，日本婦人科腫瘍学会雑誌，21 巻，26-30，2003
11. 癌における血管新生因子(VEGF,dThdPase)と薬剤，寺井義人，植田政嗣，植木 實，Medical Technology，31 巻，789-793，2003
12. 卵巣癌の臨床'04 若年卵巣癌に対する妊孕能温存手術のあり方，寺井義人，植木 實，産婦人科の世界，56 巻，357-361，2004.
13. 子宮頸癌・子宮体癌・卵巣癌の診断と治療 最新の研究動向 子宮頸癌 子宮頸部の境界病変，寺井義人，植田政嗣，日本臨床，62 巻，88-92，2004

業 績 目 録

3. 論文 (総説)

No. 30

-
- 1 4. 若年者の卵巣がんの妊孕能温存術の適応について, 寺井義人, 産婦人科の進歩, 56 巻, 546, 2004
 - 1 5. 女性性器がんの早期発見 がんを見落とさないために わが教室における子宮がん検診, 寺井義人, 植木 實, 産婦人科治療, 89 巻, 332-338, 2004
 - 1 6. 婦人科がんを見逃さないために 婦人科がんを見逃さない診療 細胞診、組織診の採取法, 寺井義人, 植田政嗣, 臨床婦人科産科, 60 巻, 1050-1053, 2006
 - 1 7. 子宮内膜癌 子宮内膜癌と SERM, 大道正英, 寺井義人, 森寫祥子, 佐々木浩, 早川 潤, HORMONE FRONTIER IN GYNECOLOGY, 13 巻, 363-368, 2006
 - 1 8. 子宮体癌の最新知見 専門医のために 子宮体癌と SERM, 大道正英, 寺井義人, 森寫祥子, 柴田雅朗, 大槻勝紀, 佐々木浩, 早川 潤, 臨床婦人科産科, 61 巻, 112-117, 2007
 - 1 9. 腹腔鏡下手術における低侵襲と機能温存の追求 子宮内膜症に対する低侵襲と機能温存を目指した腹腔鏡下手術, 奥田喜代司, 山下能毅, 寺井義人, 竹原幹雄, 檜原敬二郎, 浅野正子, 市川文雄, 大道正英, 産婦人科手術, 18 巻, 83-87, 2007
 - 2 0. タココンブ症例 産婦人科領域 婦人科悪性腫瘍手術における出血に対するタココンブの有用性, 寺井義人, 大道正英, Medical Torch, 3 巻, 36-37, 2007
 - 2 1. 産婦人科臨床の難題を解く 私はこうしている 婦人科癌治療(卵巣癌)卵巣癌における分子標的治療の展望は? 寺井義人, 大道正英, 臨床婦人科産科, 62 巻, 643-649, 2008
 - 2 2. 婦人科がんの検診 その効果と問題点 産婦人科医が行う乳がん検診, 篠原智子, 寺井義人, 大道正英, 産婦人科の実際, 57 巻, 1411-1419, 2008
 - 2 3. 卵巣癌診療の最新情報 卵巣癌治療の将来展望 卵巣癌における抗癌剤耐性の克服, 寺井義人, 大道正英, 臨床婦人科産科, 62 巻, 1332-1337, 2008
 - 2 4. 産婦人科診療 私のコツ 傍大動脈リンパ節郭清の方法と合併症軽減の工夫, 大道正英, 穀内康人, 尾本 遥, 中村路彦, 寺井義人, 金村昌徳, 恒遠啓示, 佐々木浩, 田中良道, 関島龍治, 産科と婦人科, 76 巻, 207-211, 2009
 - 2 5. 婦人科悪性腫瘍手術における傍大動脈リンパ節郭清, 寺井義人, 産婦人科の進歩, 61 巻, 61-64, 2009
 - 2 6. 子宮疾患・子宮内膜症の臨床ー基礎・臨床研究のアップデートー 腫瘍性疾患 頸部腫瘍 子宮頸部微小浸潤癌, 寺井義人, 大道正英, 日本臨床, 67 巻, 210-214, 2009
 - 2 7. QOL を考慮した婦人科がん治療 妊孕能温存 子宮頸部微小浸潤扁平上皮癌の子宮温存の適応と限界, 寺井義人, 佐々木浩, 恒遠啓示, 田中良道, 関島龍治, 藤岡聡枝, 金村昌徳, 大道正英, 臨床婦人科産科, 63 巻, 1486-1489, 2009
-

業 績 目 録

3. 論文 (総説)

No. 31

-
28. 子宮内膜症・腺筋症の外科的治療 機能温存をめざして 卵巣チョコレート嚢胞の機能温存外科治療のコツ チョコレート嚢胞内壁焼灼術, 奥田喜代司, 市川文雄, 檜原敬二郎, 荻田正子, 林 篤史, 林 美佳, 湯口裕子, 藤岡聡枝, 中村嘉宏, 山下能毅, 寺井義人, 大道正英, 臨床婦人科産科, 64 巻, 1187-1191, 2010
29. 婦人科領域における画像診断の最新情報 わが教室における画像診断の実際, 金村昌徳, 川口浩史, 芦原敬允, 藤岡聡枝, 関島龍治, 田中良道, 恒遠啓示, 佐々木浩, 寺井義人, 大道正英, 産婦人科治療, 101 巻, 87-92, 2010
30. 子宮頸癌—予防と妊孕性温存のための治療戦略 妊孕性温存のための治療戦略 子宮頸部微小浸潤癌の治療戦略, 寺井義人, 金村昌徳, 大道正英, 臨床婦人科産科, 65 巻, 1239-1242, 2011
31. 婦人科オフィス診療指針—保険診療上の留意点を含めて 腫瘍分野 婦人科癌治療後の経過観察, 田中良道, 川口浩史, 藤原聡枝, 兪 史夏, 佐々木浩, 恒遠啓示, 金村昌徳, 田辺晃子, 寺井義人, 大道正英, 産科と婦人科, 79 Suppl 巻, 159-165, 2012
32. 子宮頸がんの最新医学 0期子宮頸がんの治療, 寺井義人, からだの科学, 274 巻, 29-33, 2012
33. 子宮頸癌の臨床病理学 子宮頸癌の先駆病変, 寺井義人, 大道正英, 日本臨, 70 増刊 4 巻, 109-113, 2012
34. 婦人科がんの緩和ケア, 長えき美奈子, 宮田 郁, 寺井義人, プロフェッショナルがんナーシング, 2 巻, 696-698, 2012
35. 子宮体がん 子宮体がんに対する腹腔鏡下手術, 寺井義人, 田中智人, 佐々木浩, 兪 史夏, 藤原聡枝, 田中良道, 恒遠啓示, 金村昌徳, 大道正英, 産婦人科の実際, 62 巻, 45-50, 2013
36. 治療のトピックス 子宮体がんに対する腹腔鏡下手術, 寺井義人, 田中智人, 大道正英, 臨床婦人科産科, 67 巻, 491-496, 2013
37. ホルモン依存性悪性腫瘍 —特徴と対処を考える— 子宮体がん 子宮体がん と SERM, 古形祐平, 田辺晃子, 寺井義人, 大道正英, 産婦人科の実際, 62 巻, 1195-1200, 2013
38. 【プロメテウス 婦人科がん最新医療】 子宮体がんの手術療法 腹腔鏡下手術, 寺井義人, 田中智人, 藤原聡枝, 兪 史夏, 田中良道, 佐々木浩, 恒遠啓示, 金村昌徳, 大道正英, 産婦人科の実際, 62 巻, 1773-1778, 2013
39. あなたにもできる 【最先端の婦人科手術】 腹腔鏡下骨盤リンパ節郭清手術, 寺井義人, 田中智人, 大道正英, 臨床婦人科産科, 68 巻, 628-634, 2014
40. 産科領域手術の進歩/妊娠中の腹腔鏡下手術 妊娠中の卵巣腫瘍に対する腹腔鏡下手術, 寺井義人, 林 篤史, 藤原聡枝, 兪 史夏, 田中智人, 田中良道, 藤田太輔, 恒遠啓示, 佐々木浩, 金村昌徳, 山下能毅, 亀谷英輝, 大道正英, 産婦人科手術, 25 巻, 65-69, 2014
-

業 績 目 録

3. 論文 (総説)

No. 32

-
- 4 1. クリニカルカンファレンス Subspecialty を超えて (周産期・腫瘍) 妊娠中の婦人科良性腫瘍・悪性腫瘍 検診、診断、治療 寺井義人, 日本産科婦人科学会雑誌, 66 巻, 2089-2093, 2014
 - 4 2. 難治性卵巣癌の克服を目指して 難治性卵巣癌の浸潤・転移に関わる分子をターゲットとした新規治療法の開発 寺井義人, 日本産科婦人科学会雑誌, 66 巻, 2771-2776, 2014
 - 4 3. 【妊婦さんへの説明にそのまま使える イラストでハイリスク妊娠がわかる本】 (第 1 章)産科合併症 切迫流産(～妊娠 12 週), 藤田太輔, 寺井義人, 大道正英, ペリネイタルケア, 新春増刊巻, 22-25, 2015
 - 4 4. 【早産の予知・予防の新たな展開】早産の予防 早産に対する黄体ホルモン療法の展望, 藤田太輔, 寺井義人, 大道正英, 臨床婦人科産科, 69 巻, 313-319, 2015
 - 4 5. 【妊婦検診のすべて一週数別・大事なことを見逃さないためのチェックポイント】妊娠週数ごとの検診の実際 妊娠 12 から 21 週まで 診断と外来対応 妊婦貧血, 藤田太輔, 寺井義人, 大道正英, 臨床婦人科産科, 69 巻, 108-111, 2015
 - 4 6. 【子宮内膜癌治療の最前線】子宮内膜癌に対する手術療法 子宮内膜癌における腹腔鏡下手術, 寺井義人, 田中智人, 古形祐平, 芦原敬允, 藤原聡枝, 田中良道, 佐々木浩, 恒遠啓示, 大道正英, 産婦人科の実際, 64 巻, 635-641, 2015
 - 4 7. 【がん妊孕性温存治療の適応と注意点-腫瘍学と生殖医学の接点】 婦人科腫瘍学 子宮頸癌 微小浸潤癌への円錐切除術, 恒遠啓示, 寺井義人, 大道正英, 臨床婦人科産科, 69 巻, 820-825, 2015
 - 4 8. 【婦人科腹腔鏡手術の進歩と"落とし穴"] 腹腔鏡手術のピットフォール 悪性疾患 卵巣癌, 寺井義人, 大道正英, 臨床婦人科産科, 69 巻, 1066-1072, 2015
 - 4 9. 【婦人科腹腔鏡手術の最前線】子宮体癌に対する腹腔鏡下手術, 寺井義人, 田中智人, 古形祐平, 芦原敬允, 藤原聡枝, 田中良道, 佐々木浩, 恒遠啓示, 大道正英, 産科と婦人科, 82 巻, 1242-1247, 2015
 - 5 0. 【週数別 エコーのみかたコツとワザ いつ診る?どこ診る?どう伝える?】出生前診断におけるエコーの役割, 藤田太輔, 寺井義人, 大道正英, ペリネイタルケア, 35 巻, 61-71, 2016
 - 5 1. 【婦人科腹腔鏡手術の適応と限界を考える】腹腔鏡下子宮体がん手術の適応と限界, 寺井義人, 田中智人, 古形祐平, 芦原敬允, 藤原聡枝, 田中良道, 佐々木浩, 恒遠啓示, 大道正英, 産婦人科の実際, 65 巻, 125-131, 2016
 - 5 2. 婦人科腫瘍におけるセンチネルリンパ節生検の可能性, 寺井義人, 田中智人, 大道正英, 臨床婦人科産科, 70 巻, 433-438, 2016
 - 5 3. 【不育症 Up to Date】プロテイン S 欠乏症, 藤田太輔, 寺井義人, 大道正英, 産科と婦人科, 83 巻, 514-520, 2016
-

業 績 目 録

3. 論文 (総説)

No. 33

-
54. 【正常の確認と異常への対応を究める! 妊婦健診と保健指導パーフェクトブック 妊娠期別ガイド】(第1部)ローリスク妊娠編 妊娠初期(～12週未満)NT, 藤田太輔, 寺井義人, 大道正英, ペリネイタルケア, 2016 夏季増刊巻, 91-95, 2016
55. NTによる胎児染色体異常のスクリーニングの実際, 藤田太輔, 寺井義人, 大道 正英, ペリネイタルケア, 35巻, 991-1001, 2016
56. 【婦人科がん低侵襲治療の現状と展望<特別付録 web 動画>】 子宮体がん 腹腔鏡下手術, 寺井義人, 田中 智人, 古形 祐平, 芦原 敬允, 藤原 聡枝, 田中 良道, 佐々木 浩, 恒遠 啓示, 大道 正英, 臨床婦人科産科, 71巻, 336-343, 2017
57. 【産婦人科画像診断トレーニング-この所見をどう読むか?】 婦人科腫瘍におけるセンチネルリンパ節生検の可能性, 寺井義人, 田中智人, 大道 正英, 臨床婦人科産科, 71巻, 311-312, 2017
58. 【新人必修 周産期キーワードこれだけ 50 アドバンス助産師もブラッシュアップ】(key word 14)NT, 藤田太輔, 寺井義人, 大道 正英, ペリネイタルケア, 36巻, 337-338, 2017
59. 【新人必修 周産期キーワードこれだけ 50 アドバンス助産師もブラッシュアップ】(key word 11)胎児超音波検査, 藤田太輔, 寺井義人, 大道正英, ペリネイタルケア, 36巻, 332-333, 2017
60. 【新人必修 周産期キーワードこれだけ 50 アドバンス助産師もブラッシュアップ】(key word 15)出生前診断(NIPT), 藤田太輔, 寺井義人, 大道正英, ペリネイタルケア, 36巻, 338-339, 2017
61. 3分でわかる 周産期医療キーワード 2017(第15回) 妊娠初期胎児超音波検査, 藤田太輔, 寺井義人, 大道正英, ペリネイタルケア, 36巻, 86-489, 2017
62. 婦人科悪性腫瘍鏡視下手術の展望 教育、普及 腹腔鏡下子宮体がん手術の普及に向けて, 寺井義人, 田中智人, 芦原敬允, 藤原聡枝, 田中良道, 佐々木浩, 恒遠啓示, 大道正英, 日本婦人科腫瘍学会雑誌, 35巻, 96-103, 2017
63. 着床不全・流産をいかに防ぐか-PGS時代の不妊・不育症診療ストラテジー】母体・子宮側因子による流産・不育症 血液凝固異常症 第XII因子・プロテインS欠乏症を含めて, 藤田太輔, 寺井義人, 大道正英, 臨床婦人科産科, 71巻, 836-845, 2017
64. 緊急帝王切開の30分ルールを達成するためのポイント, 大門篤史, 藤田太輔, 寺井義人, 大道正英, 臨床婦人科産科, 71巻, 1093-1097, 2017
65. 【今、話題になっていること-婦人科編】 婦人科悪性腫瘍に対する鏡視下手術, 寺井義人, 日本医事新報, 4906巻, 31-33, 2018
66. 【エキスパートの内視鏡手術-コツとピットフォールI】子宮体がん 腹腔鏡下子宮体がん手術, 田中良道, 寺井義人, 寺田信一, 古形祐平, 芦原敬允, 藤原聡枝, 田中智人, 恒遠啓示, 大道正英, 産婦人科の実際, 67巻, 275-280, 2018
-

業 績 目 録

3. 論文 (総説)

No. 34

67. 【婦人科がん(第2版)-最新の研究動向-】 子宮体がん 子宮体癌の治療 腹腔鏡下手術(傍大動脈リンパ節郭清を含めて), 寺井義人, 田中智人, 大道正英, 日本臨床 76, (増刊2 婦人科がん)巻, 429-436, 2018
68. 【婦人科がん-研究・臨床の新展開】 子宮体癌 子宮体癌手術療法の新たな展開. 寺井義人, 医学のあゆみ 266 巻, 57-62, 2018
69. 【産科・婦人科の手術看護パーフェクトマニュアル】 (第2章) 実践編 術式別の術中看護マニュアル 広汎子宮全摘出術(腹腔鏡). 田中智人, 寺井義人, オペナーシング 2018 臨時増刊, 181-191, 2018
70. 【婦人科腫瘍の新たな治療戦略】 子宮頸がんにおける低侵襲手術の現況, 寺井義人, 大道正英, Pharma Medica 37 巻, 33-38, 2019
71. 【Focus 子宮体がんにおける腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清 寺井義人, 田中智人, 大道正英, 臨床婦人科産科 73; 1253-1257, 2019
72. 【迫り来る 2020:新規保険収載へのロードマップと適正運用】 外保連 腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清術, 寺井義人, 産婦人科の実際 68 巻, 1359-1364, 2019
73. 【徹底解説!卵巣がんの最新治療-複雑化する治療を整理する】 ここが知りたい最新の治療戦略《初回治療》 化学療法先行後の腫瘍減量術(NAC+IDS)の適応は?(解説/特集), 鈴木嘉穂, 寺井義人, 臨床婦人科産科 74 巻 3 号, 363-368, 2020
74. 【婦人科腫瘍における低侵襲手術について】 子宮体がんに対する低侵襲手術(解説/特集), 寺井義人, 日本産科婦人科学会雑誌 72 巻 6 号, 652-658, 2020
75. 【専攻医必携! 術中・術後トラブル対処法-予期せぬ合併症で慌てないために】 婦人科編 婦人科悪性腫瘍における傍大動脈リンパ節郭清術 腹腔鏡下・開腹 寺井義人 臨床婦人科産科 75 巻 681-687, 2021
76. 【産婦人科患者説明ガイド-納得・満足を引き出すために】 悪性腫瘍 腹腔鏡下広汎子宮全摘術を行うにあたっての患者説明 寺井義人 臨床婦人科産科 75 巻 323-328, 2021
77. 梅毒の診療 ベンザチンペニシリン G 筋肉注射治療も含め(解説) 今福仁美, 出口雅士, 大路剛, 寺井義人 産婦人科の進歩 74 巻 466-468, 2022
78. 【子宮体がん診療の最前線-最新分類から治療法まで】 手術療法 腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清術の安全な施行のために(解説) 寺井義人, 臨床婦人科産科 77 巻 256-261, 2023
79. 【婦人科疾患の診断・治療】 卵巣癌の手術療法について(解説) 若橋 宣 寺井義人 映像情報 Medical 55 巻 9 号 10-15, 2023
80. 【内視鏡医学のすべて-各領域における診断・治療の進歩】 産科婦人科 子宮体癌の内視鏡手術 ロボット支援手術を含む(解説) 寺井義人, 医学のあゆみ 286 巻 14 号 1184-1189 2023

業 績 目 録

3. 論文（総説）

No. 35

- 8 1. 【動画で理解する婦人科悪性腫瘍手術の外科解剖-腔の展開と切断ラインの決定-】カダ
バーにおける鏡視下手術解剖(1)(解説) 寺井義人 産婦人科の実際 72 巻 13 号
1465-1471, 2023

業 績 目 録

4. 論文 (その他)

No. 36

(英文)

1. Yamada T, Terai Y, Yamashita Y, Kim N and Ueki M , A Case of Bone Pain Caused by Erythropoietin, Int J Clin Oncol. 1996, 1, 61-62. (IF=2.4, CI=0)
2. Yamashita Y, Kamegai H, Terai Y, Yamada T, Ueki M, A Case of Ectopic Ovary, Bull OMC. 1998, 44, 1-4. (IF=0, CI=0)
3. Yoshimura M, *Terai Y, Konishi H, Tanaka Y, Tanaka T, Sasaki H, and Ohmichi M, Laparoscopic Diagnosis of Adenocarcinoma of the Appendix Mimicking Serous Papillary Adenocarcinoma of the Peritoneum, Case Rep Obstet Gynecol. 2013, 2013:248917. (IF=0.6, CI=0)
4. Nakai G, Maeda K, Yamamoto K, Yamada T, Hirose Y, Terai Y, Ohmichi M, Katsumata T, Narumi Y. Uterine Intravenous Leiomyomatosis with Cardiac Extension: Radiologic Assessment with Surgical and Pathologic Correlation, Case Rep Obstet Gynecol. 2015, 2015: 576743. (IF=0.6, CI=0)
5. Daimon A, *Terai Y, Nagayasu Y, Okamoto A, Sano T, Suzuki Y, Kanki K, Fujita D, Ohmichi M, A Case of Intestinal Obstruction in Pregnancy Diagnosed by MRI and Treated by Intravenous Hyperalimentation, Case Rep Obstet Gynecol. 2016, 2016: 8704035. (IF=0.6, CI=0)
6. Maeda K, *Terai Y, Terada S, Maruoka H, Kogata Y, Ashihara K, Tanaka Y, Tanaka T, Sasaki H, Tsunetoh S, Yamada T, Ohmichi M. A case of ovarian clear cell carcinoma arising from ovarian mature cystic teratoma. J Ovarian Res. 2018: 11, 74. (IF=3.8, CI=7)
7. Inada Y, Nakai G, Yamamoto K, Yamada T, Hirose Y, Terai Y, Ohmichi M, Narumi Y. Rapidly growing juvenile granulosa cell tumor of the ovary arising in adult: a case report and review of the literature. J Ovarian Res. 2018: 11, 100. (IF=3.8, CI=12)
8. Tanaka Y, Tsuboyama T, Yamamoto K, Terai Y, Ohmichi M, Narumi Y. A case of torsion of a normal ovary in the third trimester of pregnancy: MRI findings with emphasis on asymmetry in the diameter of the ovarian veins. Radiol Case Rep. 2018: 14, 324-327. (IF=0.6, CI=0)
9. Nagamata S, Nakasuji Y, Yamanaka K, Azumi M, Washio K, Shimizu M, Takahashi R, Matsumoto K, Murata Y, Suzuki K, Deguchi M, Yamada H, *Terai Y. A Case of Significant Response to Olaparib in a Patient with Primary Peritoneal Carcinosarcoma Diagnosed by Laparoscopic Surgery Case Rep Obstet Gynecol. 2020, 2020:9106390. (IF=0.6, CI=0)
10. Shimizu M, Yamanaka K, Azumi M, Tomimoto M, Washio K, Takahashi R, Nagamata S, Murata Y, Yamasaki Y, *Terai Y. A case of synchronous serous ovarian cancer and uterine serous endometrial intraepithelial carcinoma. J Ovarian Res. 2021, 14(1), 87. (IF=3.8, CI=4)

業 績 目 録

4. 論文 (その他)

No. 37

- 1 1. Obata K, Tanimura K, Masuko N, Imafuku H, Egi M, Terai Y. Abdominal compartment syndrome in a monochorionic-triamniotic triplet pregnancy complicated by feto-fetal transfusion syndrome J Obstet Gynaecol Res. 2021, 47, 4087-4092. (IF=1.6, CI=3)
- 1 2. Tanimura K, Shi Y, Imafuku H, Nakanishi T, Kanzawa M, Terai Y. Sudden fetal death with placental mesenchymal dysplasia complicated by placenta previa. J Obstet Gynaecol Res. 2021, 47(11), 4087-4092. (IF=1.6, CI=0)
- 1 3. Washio K, Komatsu M, Tomimoto M, Uchida A, Sasagawa Y, Nishimoto M, Nagamata S, Yamasaki Y, Tanimura K, *Terai Y. Uterine rupture in intramural ectopic pregnancy: A case report. Asian J Endosc Surg. 2023;16(3):510-513. (IF=0.9, CI=0)
- 1 4. Yano Y, Yamasaki Y, Yamanaka K, Nishimoto M, Nagamata S, *Terai Y. A case of a recurrent low-grade endometrial stromal sarcoma extending to the inferior vena cava (IVC) after the primary fertility-sparing surgery. Int J Surg Case Rep. 2023, 111, 108857. (IF=0.6, CI=0)

(和文)

1. 小児における卵巣類皮嚢胞腫の茎捻転の1例, 寺井義人, 亀谷英輝, 山田隆司, 植木 實, 杉本 修, 産婦人科の進歩, 46 巻, 283-286, 1994
2. 妊娠 32 週で脳室内出血を起こしたもやもや病合併妊娠の1例, 寺井義人, 清木康雄, 後藤真樹, 笠松 源, 伊藤親昭, 吉崎恭史, 志熊道夫, 山田隆司, 植木 實, 産婦人科の進歩, 48 巻, 20-25, 1996
3. 子宮頸部原発悪性黒色腫の1例, 寺井義人, 山下能毅, 植木 健, 山下英俊, 岡本吉明, 植田政嗣, 植木 實, 大槻勝紀, 産婦人科の進歩, 49 巻, 563-567, 1997
4. 子宮腺筋症・内頸部腺線維腫合併の1症例, 植木 健, 熊谷広治, 寺井義人, 岡本吉明, 植田政嗣, 植木 實, 産婦人科の進歩 49 巻, 573-577, 1997
5. 子宮頸部原発悪性黒色腫の MRI -Amelanotic melanoma の1例-, 山本和宏, 田中康敬, 清水雅史, 河合武司, 檜林 勇, 寺井義人, 山下能毅, 日本磁気共鳴医学会雑誌, 17 巻, 507-511, 1997
6. 不妊治療中に発生した卵巣境界悪性腫瘍の2例, 山下能毅, 寺井義人, 植木 健, 清木康雄, 岡本吉明, 植田政嗣, 植木 實, 産婦人科の進歩, 52 巻, 28-30, 2000
7. 右卵巣未熟奇形腫の治療後6年目に左卵巣成熟嚢胞性奇形腫を発症した1例, 熊谷広治, 神田隆善, 佐藤菜乙美, 岩井恵美, 植木 健, 寺井義人, 植田政嗣, 植木 實, 日本産科婦人科学会誌, 52 巻, 1717-1720, 2000

業 績 目 録

4. 論文 (その他)

No. 38

8. 便秘を伴う卵巣原発甲状腺性カルチノイドの1例, 竹原幹雄, 寺井義人, 佐藤直美, 西山浩司, 安田勝行, 神田宏治, 植田政嗣, 植木 實, 産婦人科の進歩, 56 巻, 287-292, 2004
 9. 子宮奇形を伴った原発性陰明細胞腺癌の1例, 金村昌徳, 寺井義人, 植田政嗣, 植木 實, 産婦人科の進歩, 56 巻, 452-457, 2004
 10. 子宮体癌術後、下肢浮腫出現に続き17日目に発症した肺塞栓症の1例, 中井 豪, 神田宏治, 植田政嗣, 寺井義人, 金村昌徳, 山口裕之, 植木 實, 産婦人科の進歩, 57 巻, 156-159, 2005
 11. 卵巣腫瘍、子宮肉腫と鑑別困難であった小腸 gastrointestinal stromal tumor の2症例, 莊園へキ子, 寺井義人, 山下能毅, 安田勝行, 植田政嗣, 植木 實, 山田隆司, 森 浩志, 日本婦人科腫瘍学会誌, 23 巻, 185-190, 2005
 12. 子宮動脈塞栓術(UAE)後に妊娠に至った1例, 山口裕之, 植木 健, 山本和宏, 有本 博, 竹原幹雄, 莊園へキ子, 寺井義人, 亀谷英輝, 植田政嗣, 植木 實, 産婦人科の進歩, 58 巻, 176-178, 2006
 13. 集学的治療が奏効した子宮頸部すりガラス細胞癌の1例, 安田勝行, 植田政嗣, 寺井義人, 金村昌徳, 西山浩司, 恒遠啓示, 大道正英, 産婦人科の進歩, 58 巻, 351-354, 2006
 14. 初回治療後に再発した卵巣境界悪性腫瘍2例の臨床的検討, 田中智人, 寺井義人, 山口裕之, 西山浩司, 金村昌徳, 大道正英, 産婦人科の進歩, 58 巻, 388-392, 2006
 15. 卵巣チョコレート嚢胞に対する保存手術4年後に卵巣癌が発生した1例, 恒遠啓示, 竹原幹雄, 笠松真弓, 明瀬大輔, 寺井義人, 植田政嗣, 辻 求, 大道正英, 産婦人科の進歩, 59 巻, 20-22, 2007
 16. 腹腔鏡下子宮内膜症手術後に再発する骨盤痛にジェノゲストを長期投与した1例, 熊谷広治, 奥田喜代司, 寺井義人, 安田勝行, 山下能毅, 大道正英, 産婦人科の進歩, 64 巻, 41-48, 2012
 17. タモキシフェン内服後に発症した子宮癌肉腫の1例, 前沢早紀, 藤原聡枝, 兪 史夏, 田中良道, 田中智人, 恒遠啓示, 金村昌徳, 寺井義人, 大道正英, 産婦人科の進歩, 65 巻, 227, 2013
 18. 腹腔鏡下生検で腹水細胞診陽性であった虫垂癌の一例, 小西博巳, 田中智人, 斉藤奈津穂, 藤原聡枝, 兪 史夏, 田中良道, 恒遠啓示, 金村昌徳, 寺井義人, 大道正英, 日本臨床細胞学会雑誌 52(Suppl.1) 巻, 223, 2013
 19. 卵巣小細胞癌の1例, 丸岡 寛, 藤原聡枝, 田中智人, 田中良道, 恒遠啓示, 金村昌徳, 寺井義人, 山田隆司, 辻 求, 大道正英, 日本臨床細胞学会雑誌, 52(Suppl.1)巻, 307, 2013
-

業 績 目 録

4. 論文 (その他)

No. 39

-
20. 茎捻転による急性腹症を伴った腫瘍内容液が13kgの巨大卵巣嚢腫を腹腔鏡下に治療し得た1例, 恒遠啓示, 寺井義人, 兪 史夏, 藤原聡枝, 田中良道, 田中智人, 金村昌徳, 大道正英, 産婦人科の進歩, 67 巻, 95-100, 2015
21. 子宮腺筋症の癌化と考えられた類内膜腺癌8症例の検討, 小西博巳, 佐々木浩, 兪 史夏, 田中良道, 恒遠啓示, 金村昌徳, 寺井義人, 大道正英, 産婦人科の進歩, 67 巻, 247-253, 2015
22. 閉経後に発症した Sertoli 細胞腫の1例, 村山結美, 田中良道, 田中智人, 恒遠啓示, 佐々木浩, 金村昌徳, 寺井義人, 大道正英, 産婦人科の進歩, 68 巻, 36-41, 2016
23. 加重型妊娠高血圧腎症と重症胎児発育不全を合併した hyperreactio luteinalis の1例, 太田沙緒里, 林 篤史, 岡本敦子, 佐野 匠, 神吉一良, 鈴木裕介, 藤田太輔, 寺井義人, 大道正英, 産婦人科の進歩, 68 巻, 106-111, 2016
24. ラミブジンを妊娠後期より投与し母子感染予防を試みた高ウイルス量B型肝炎合併妊娠の2症例, 布出実紗, 竹原幹雄, 伊藤理恵, 川口浩史, 藤田太輔, 寺井義人, 大道正英, 日本周産期・新生児医学会雑誌, 52 巻, 135-139, 2016
25. 腹腔鏡下手術により診断に至った結核性腹膜炎の1例, 芦原敬允, 宮本瞬輔, 古形祐平, 藤原聡枝, 田中智人, 恒遠啓示, 寺井義人, 大道正英, 産婦人科の進歩, 69 巻, 145-150, 2017
26. 腹腔鏡下に診断し治療した原発性腹膜妊娠の1症例, 宮本瞬輔, 田中智人, 寺田信一, 古形祐平, 芦原敬允, 林 篤史, 寺井義人, 大道正英, 産婦人科の進歩, 69 巻, 355-359, 2017
27. 嚢胞性子宮腺筋腫に対し子宮鏡下摘出術を施行した一例, 前田和也, 古形祐平, 丸岡 寛, 田中智人, 恒遠啓示, 寺井義人, 猪木千春, 大道正英, 日本産科婦人科内視鏡学会雑誌, 33 巻, 228-233, 2017
28. 卵巣悪性腫瘍合併妊娠の1例, 田中サキ, 藤原聡枝, 田中良道, 田中智人, 恒遠啓示, 佐々木浩, 寺井義人, 大道正英, 産婦人科の進歩, 70 巻, 89-96, 2018
29. 尿細胞診が発見の契機となった膀胱内に発生した尖圭コンジローマの1例, 橋田 宗祐, 藤原 聡枝, 寺井義人, 大道 正英, 日本臨床細胞学会雑誌 57 巻, 213-216, 2018
30. 卵巣境界悪性腫瘍合併妊娠に対し腹腔鏡併用下に手術を施行した2例, 寺田 信一(大阪医科大学 産婦人科学教室), 恒遠 啓示, 宮本 瞬輔, 田中 良道, 田中 智人, 寺井義人, 大道 正英, 産婦人科の進歩, 71 巻, 37-44, 2019
31. 妊娠後期に感染性心内膜炎となり帝王切開術後に僧帽弁形成術を施行した1例, 田路 明彦(大阪医科大学 産婦人科学教室), 藤田 太輔, 布出 実紗, 村山 結美, 永易 洋子, 佐野 匠, 寺井義人, 大道 正英, 産婦人科の進歩, 71 巻, 135-141, 2019
-

業 績 目 録

4. 論文 (その他)

No. 40

32. 卵管留水腫に対する腹腔鏡下卵管切除術前後の卵巢機能と術後妊娠率、穀内 香奈(大阪医科大学 産婦人科学教室), 奥田 喜代司, 中村 奈津穂, 恒遠 啓示, 林 正美, 寺井義人, 大道 正英, 産婦人科の進歩, 71 巻, 67-73, 2019
33. 腺筋症を合併した非交通性副角子宮を伴う単角子宮に対し、腹腔鏡下副角子宮摘出術を施行した 1 例 清水真帆、山中啓太郎、鷺尾佳一、高橋良輔、長又哲史、村田友香、鈴木嘉穂、寺井義人、日本産科婦人科内視鏡学会誌 ; 36 巻 163-169, 2020
34. イリノテカン+シスプラチン療法が奏功した局所進行子宮頸部小細胞癌の一例、安積麻帆、鈴木嘉穂、出口雅士、松本培世、長又哲史、高橋良輔、蝦名康彦、寺井義人、日本婦人科腫瘍学会誌、38 巻、193-199, 2020
35. 子宮頸癌に対する放射線療法施行後、比較的早期に二次性子宮癌肉腫と診断した 1 例 山中 啓太郎, 高橋 良輔, 鷺尾 佳一, 清水 真帆, 長又 哲史, 村田 友香, 鈴木 嘉穂, 寺井義人 産婦人科の進歩 73:307-312, 2021
36. 肉腫と診断した 1 例 山中啓太郎, 高橋良輔, 鷺尾佳一, 清水真帆, 長又哲史, 村田友香, 鈴木嘉穂, 寺井義人 産婦人科の進歩 73 巻 307-312, 2021
37. 子宮頸部に発生した子宮腺筋症由来の類内膜癌に対する審査腹腔鏡が有用であった 1 例 西本昌司、山崎友維、山中啓太郎、富本雅子、安積麻帆、鷺尾佳一、笹川勇樹、寺井義人 産婦人科の進歩 74 巻 412-417, 2022
38. 生体腎移植後に子宮頸癌を発症した症例に対して、発光式尿管カテーテル (Infrared illumination system) を用いて腹腔鏡下広汎子宮全摘術を施行した 1 例 富本雅子、長又哲史、山中啓太郎、清水真帆、鷺尾佳一、山崎友維、西本昌司, 寺井義人 日本産科婦人科内視鏡学会雑誌 38 巻 150-156, 2022
-

業 績 目 録

4. 論文（その他）

No. 41

（特許）

1. 発明の名称：プラチナ製剤耐性卵巣がんの検出方法、及び腫瘍の治療又は予防候補物質
をスクリーニングする方法
発明者：南 康博，紙崎孝基，高橋良輔，寺井義人，
出願人：国立大学法人神戸大学
出願日：2023 年 6 月 26 日
出願番号：2023-104011
-

業 績 目 録

- | | No. | 42 |
|---|---|----|
| 5. 学会発表（国内学会）
（番号，演題名，発表者（共同発表者を含む），学会名，発行年の順に記入してください。）
（教育講演） | | |
| 1. | 妊娠中の婦人科良性・悪性腫瘍 一検診、診断、治療一， <u>寺井義人</u> ，第 66 回日本産科婦人科学会，2014 | |
| 2. | 子宮悪性腫瘍， <u>寺井義人</u> ，第 131 回近畿産科婦人科学会，2014 | |
| 3. | 婦人科悪性腫瘍における腹腔鏡下術の適応と限界， <u>寺井義人</u> ，第 57 回日本産科婦人科内視鏡学会，2017 | |
| 4. | 腹腔鏡下子宮体がん手術， <u>寺井義人</u> ，日本産科婦人科内視鏡学会 2018 年度腹腔鏡下悪性腫瘍セミナー，2019 | |
| 5. | 婦人科悪性腫瘍における minimally invasive surgery の現状と展望， <u>寺井義人</u> ，平成 31 年度岐阜産科婦人科研究会，2019 | |
| 6. | 低侵襲手術への歩みと展望。 <u>寺井義人</u> ，平成 31 年位育会総会，2019 | |
| 7. | 本邦の婦人科悪性腫瘍に対する腹腔鏡下手術の現状と展望。 <u>寺井義人</u> ，第 139 回東海産婦人科学会，2019 | |
| 8. | 本邦の婦人科悪性腫瘍に対する鏡視下手術， <u>寺井義人</u> ，第 7 回新潟婦人科内視鏡手術セミナー，2019 | |
| 9. | 当科での鏡視下手術の取り組み， <u>寺井義人</u> ，第 3 回婦人科がん内視鏡出雲セミナー，2019 | |
| 10. | 卵巣癌治療に対する最新の知見， <u>寺井義人</u> ，東北婦人科腫瘍研究会，2019 | |
| 11. | 子宮内膜症治療の現状と問題点～ここまでできる鏡視下手術の世界～ <u>寺井義人</u> ，産婦人科医会学術講演会，2019 | |
| 12. | 婦人科悪性腫瘍に対する鏡視下手術の歩みと展望， <u>寺井義人</u> ，聖マリアンナ医科大学第 27 回 鈴木・産婦セミナー，2019 | |
| 13. | 婦人科悪性腫瘍に対する鏡視下手術の現状と展望， <u>寺井義人</u> ，京都大学第 2 回産婦人科骨盤内手術手技研究会，2019 | |
| 14. | 子宮頸がんに対する鏡視下手術について， <u>寺井義人</u> ，第 6 回日本婦人科腫瘍学会研修会，2019 | |
| 15. | 内視鏡技術認定医への Tips。 <u>寺井義人</u> ，第 2 回兵庫県婦人科内視鏡セミナー，2019 | |
| 16. | 子宮体癌に対する腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清術。 <u>寺井義人</u> ，第 72 回日本産科婦人科学会学術講演会 ビデオセッション，2020 | |

業 績 目 録

5. 学会発表（国内学会）No. 43
(番号, 演題名, 発表者（共同発表者を含む）, 学会名, 発行年の順に記入してください。)
-
- 1 7. 腹腔鏡下広汎子宮全摘術 寺井義人, 第 45 回日本外科系連合学会学会学術集会 教育ビデオセミナー, 2020
- 1 8. 安全な婦人科鏡視下手術を行うために、鏡視下手術セミナー、寺井義人, 第 42 回日本エンドメトリオーシス学会学術講演会, 2021
- 1 9. 子宮体がん鏡視下手術について 現状と安全な普及に向けて 寺井義人, 日本産科婦人科内視鏡学会第 6 回腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術セミナー, 2021
- 2 0. 内視鏡外科のステップアップと技術の応用編「32. 子宮（広汎子宮全摘術）」寺井義人, 教育ビデオセミナー 第 46 回日本外科系連合学会学術集会, 2021
- 2 1. 婦人科腫瘍における鏡視下手術ー腹腔鏡手術からロボット手術へー, 寺井義人, 第 149 回東北連合産婦人科学会, 2021
- (基調講演)
- 2 2. 日本における婦人科腫瘍の Cadaver Surgical training(Cadaver Surgical training for gynecological tumor in Japan) 寺井義人, 第 64 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2022
- (特別講演)
- 2 3. 婦人科悪性腫瘍におけるロボット手術の現在地. 寺井義人, 第 9 回日本婦人科ロボット手術学会, 2021
- 2 4. 婦人科腫瘍手術におけるパラダイムシフト, 寺井義人, ぐんま産婦人科周産期セミナー, 2021
- 2 5. 子宮腫瘍における鏡視下手術, 寺井義人, 第 1 回 KOBE 子宮筋腫治療ウェビナー, 2021
- 2 6. 卵巣癌治療における最新の知見～PARP 阻害薬を実臨床で活かす～ 寺井義人, 卵巣癌診療 web 講演会, 2021
- 2 7. 婦人科腫瘍における鏡視下手術～貧血からロボット手術まで～, 寺井義人, 第 348 回筑後ブロック産婦人科医会研修会, 2021
- 2 8. 子宮頸がんに対する鏡視下手術, 寺井義人, がん医療 WEB セミナー, 2021
- 2 9. 婦人科における安全な鏡視下手術を目指して, 寺井義人, 第 602 回松山産婦人科医会 10 月例会, 2021
- 3 0. 産婦人科領域の新規保険収載に向けた取り組み ー腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清術ー 寺井義人, 婦人科腫瘍委員会・社会保険員会合同企画 第 73 回日本産科婦人科学会学術講演会, 2021
-

業 績 目 録

5. 学会発表（国内学会）No. 44
-
- （番号、演題名、発表者（共同発表者を含む）、学会名、発行年の順に記入してください。）
31. 先進医療下子宮体癌に対する腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清術登録結果の検討, 鈴木嘉穂, 高橋良輔, 山中啓太郎, 鷺尾一佳, 清水真帆, 長又哲史, 村田友香, 出口雅士, 寺井義人, 第62回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2021
32. 婦人科手術におけるパラダイムシフト, 寺井義人, 第1回 Osaka Metropolitan 手術研究会, 2021
33. 婦人科におけるロボット手術の現状と展望, 寺井義人, 阪神間 Endoscopy Webinar, 2022
34. 婦人科癌手術療法のアップデート, 寺井義人, Session I: 卵巣癌の手術療法 婦人科腫瘍 Update Seminar, 2022
35. 婦人科手術におけるパラダイムシフト, 寺井義人, 第155回山形県産婦人科集談会, 2022
36. 子宮体癌治療 update. 寺井義人, Endometrial Cancer Virtual Seminar, 2022
37. 指導医として安全な婦人科鏡視下手術を行うために 寺井義人, 兵庫県産婦人科学会指導医講習会 第96回兵庫県産科婦人科学会学術集会, 2022
38. 「卵巣がん診断・治療のパラダイムシフト」「卵巣がんの手術療法」寺井義人, 第74回日本産科婦人科学会学術講演会, 2022
39. 「子宮体がんの子宮摘出法に関する議論」「子宮悪性腫瘍手術に対する腹腔鏡技術認定審査の課題」寺井義人, 第62回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 2022
40. 婦人科腫瘍における鏡視下手術の現状と展望, 寺井義人, 48回神奈川産婦人科内視鏡研究会, 2022
41. 卵巣癌手術 update, 寺井義人, Ovarian Cancer Online Seminar, 2022
42. hinotori™ 婦人科領域への第1歩, 寺井義人, 第20回長野県婦人科腫瘍懇話会, 2023
43. hinotori™ 婦人科領域における第1歩, 寺井義人, 第3回婦人科低侵襲手術セミナー, 2023
-

業 績 目 録

5. 学会発表（国内学会）

No. 45

（番号，演題名，発表者（共同発表者を含む），学会名，発行年の順に記入してください。）

（シンポジウム）

1. 子宮頸部腺異形成に関する病理学的検討-前癌病変としての位置付け-, 岡本吉明, 植木健, 熊谷広治, 山下能毅, 寺井義人, 後藤真樹, 植田政嗣, 植木 實, 杉本 修, 第 90 回近畿産科婦人科学会 腫瘍研究部会, 1994
2. 子宮頸癌の浸潤動態と増殖因子, 植田政嗣, 寺井義人, 植木 健, 熊谷広治, 岡本吉明, 植木 實, 第 27 回日本婦人科病理学会, 1997
3. 卵巣癌 境界病変・初期(I)癌の姑息的治療と術後化学療法 of 妊孕性に対する影響, 寺井義人, 植田政嗣, 岡本吉明, 熊谷広治, 植木 健, 植木 實, 第 98 回近畿産婦人科学会, 1998
4. 子宮頸部初期病変における治療と細胞診 レーザー円錐切除術前後の細胞診の役割, 植木 健, 山口裕之, 出馬晋二, 金村昌徳, 寺井義人, 熊谷広治, 鶴長建充, 植田政嗣, 植木 實, 第 40 回日本臨床細胞学会, 2001
5. 子宮上皮性・間葉性混合腫瘍の病理, 森 浩志, 山田隆司, 寺井義人, 植田政嗣, 植木 實, 第 31 回日本婦人科腫瘍学会, 2001
6. 子宮頸癌の浸潤・転移とその制御, 植田政嗣, 寺井義人, 山下能毅, 熊谷広治, 植木 健, 神田宏治, 山口裕之, 明瀬大輔, 洪 耀欽, 植木 實, 第 31 回日本婦人科腫瘍学会, 2001
7. 血管新生因子を分子標的とした婦人科癌の浸潤・転移とその制御, 寺井義人, 植田政嗣, 植木 實, 佐藤靖史, 第 75 回日本組織培養学会, 2002
8. 血管新生因子を分子標的とした婦人科癌の発育・進展とその制御, 寺井義人, 植田政嗣, 植木 實, 佐藤靖史, 第 43 回日本臨床細胞学会, 2002
9. 進行子宮頸部癌に対する治療法のスタンダライゼーションを求めて 進行子宮頸癌に対する動注化学療法の効果と問題点, 寺井義人, 植木 健, 明瀬大輔, 山口裕之, 神田宏治, 熊谷広治, 植田政嗣, 植木 實, 山本和宏, 檜林 勇, 第 33 回日本婦人科腫瘍学会, 2002
10. 細胞診異常妊娠の取り扱いについて, 山口裕之, 寺井義人, 植木 健, 出馬晋二, 明瀬大輔, 植田政嗣, 植木 實, 第 12 回日本婦人科がん検診学会, 2003
11. 子宮頸部初期浸潤癌に対する治療的円錐切除-その限界と今後の展望-, 西山浩司, 植木 健, 山口裕之, 出馬晋二, 金村昌徳, 寺井義人, 植田政嗣, 植木 實, 第 42 回日本癌治療学会, 2004

業 績 目 録

5. 学会発表（国内学会）

No. 46

（番号，演題名，発表者（共同発表者を含む），学会名，発行年の順に記入してください。）

-
- 1 2. 植田政嗣，寺井義人，植木 實，子宮頸部腺癌の細胞診とコルポスコピー，第 45 回日本臨床細胞学会，2004
 - 1 3. 子宮頸癌発生過程と Fas 遺伝子多型，山口裕之，植田政嗣，寺井義人，神田宏治，植木健，金村昌徳，明瀬大輔，西山浩司，植木 實，第 44 回日本臨床細胞学会，2005
 - 1 4. Thyrosine kinase domain を分子標的とした婦人科癌治療の可能性，寺井義人，植田政嗣，山口裕之，竹原幹雄，金村昌徳，西山浩司，植木 實，大道正英，第 47 回日本臨床細胞学会，2006
 - 1 5. 子宮内膜症に卵管・卵巣膿瘍を併発した症例に対する腹腔鏡下手術，奥田喜代司，中村嘉宏，吉田陽子，関島龍治，荻田正子，榎原敬二郎，林 篤史，山下能毅，寺井義人，大道正英，第 31 回日本エンドメトリオーシス学会，2010
 - 1 6. 組織特異性を示すエストロゲンレセプターの制御機構と臨床応用，寺井義人，佐々木浩，田辺晃子，田中良道，藤原聡枝，恒遠啓示，関島龍治，金村昌徳，大道正英，第 51 回日本組織細胞化学会総会・学術集会，2010
 - 1 7. 当科での卵巣がん進行・再発卵巣がん症例に対する治療，金村昌徳，川口浩史，兪 史夏，藤岡聡枝，田中良道，関島龍治，恒遠啓示，佐々木浩，田辺晃子，寺井義人，大道正英，11th JSAWI，2010
 - 1 8. 子宮体がんに対する術式の開発と合併症軽減の取り組み，寺井義人，佐々木浩，兪 史夏，藤原聡枝，古形祐平，田吹邦雄，吉村真由美，川口浩史，高井雅聡，田中良道，恒遠啓示，金村昌徳，大道正英，第 51 回日本産婦人科内視鏡学会，2011
 - 1 9. 婦人科癌と EMT (epithelial mesenchymal transition)，寺井義人，田中良道，川口浩史，兪 史夏，藤原聡枝，高井雅聡，佐々木浩，恒遠啓示，金村昌徳，田辺晃子，大道正英，第 50 回日本婦人科腫瘍学会，2011
 - 2 0. 進行卵巣癌・腹膜癌に対する診断目的の腹腔鏡下生検手術の有用性，寺井義人，田中良道，川口浩史，高井雅聡，藤原聡枝，兪 史夏，恒遠啓示，金村昌徳，山田隆司，大道正英，第 53 回日本臨床細胞学会，2012
 - 2 1. EBM に基づく子宮体がんに対する腹腔鏡下手術，寺井義人，田中智人，丸岡寛，小西博巳，斉藤奈津穂，比嘉涼子，川口浩史，高井雅聡，兪 史夏，藤原聡枝，中村路彦，田中良道，恒遠啓示，金村昌徳，大道正英，第 52 回日本産科婦人科内視鏡学会，2012
 - 2 2. 先進医療制度で始まった子宮体がんに対する腹腔鏡下手術，寺井義人，田中智人，川口浩史，高井雅聡，兪 史夏，藤原聡枝，中村路彦，田中良道，恒遠啓示，金村昌徳，山下能毅，大道正英，第 53 回日本産科婦人科内視鏡学会，2013
 - 2 3. 早期子宮体癌に対する腹腔鏡下手術，田中智人，寺井義人，芦原敬允，前田和也，劉 昌恵，中村路彦，川口浩史，高井雅聡，兪 史夏，藤原聡枝，田中良道，恒遠啓示，金村昌徳，大道正英，第 36 回日本産婦人科手術学会，2013
-

業 績 目 録

5. 学会発表（国内学会）

No. 47

（番号，演題名，発表者（共同発表者を含む），学会名，発行年の順に記入してください。）

-
24. 子宮体がんにおける腹腔鏡下手術，寺井義人，田中智人，芦原敬允，前田和也，中村路彦，川口浩史，高井雅聡，藤原聡枝，田中良道，佐々木浩，恒遠啓示，金村昌徳，山下能毅，大道正英，第26回日本内視鏡外科学会，2013
25. 難治性卵巣癌の浸潤・転移に関わる分子をターゲットとした新規治療法の開発，寺井義人，第66回日本産科婦人科学会，2014
26. 子宮体がんにおけるセンチネルリンパ節生検，寺井義人，田中智人，佐々木浩，田中良道，劉 昌恵，古形祐平，中村真由美，藤原聡枝，兪 史夏，芦原敬允，前田和也，中村路彦，恒遠啓示，金村昌徳，大道正英，第52回日本癌治療学会，2014
27. 子宮体がんに対する腹腔鏡下手術の現状と今後の展開，寺井義人，田中智人，古形祐平，中村真由美，芦原敬允，前田和也，兪 史夏，藤原聡枝，中村路彦，田中良道，恒遠啓示，佐々木浩，金村昌徳，大道正英，第54回日本産科婦人科内視鏡学会，2014
28. 早期子宮体癌に対する腹腔鏡下準広汎子宮全摘術，田中智人，寺井義人，大道正英，第27回日本内視鏡外科学会，2014
29. 子宮頸部筋腫に対する腹腔鏡下子宮全摘術，奥田喜代司，斉藤奈津穂，中村容子，穀内香奈，寺井義人，第27回日本内視鏡外科学会，2014
30. 保険適応となった腹腔鏡下子宮体がん手術の現状と今後，寺井義人，田中智人，古形祐平，芦原敬允，前田和也，兪 史夏，藤原聡枝，田中良道，恒遠啓示，佐々木浩，大道正英，第55回日本産科婦人科内視鏡学会，2015
31. 先進医療に基づく子宮頸癌に対する腹腔鏡下広汎子宮全摘術の導入，寺井義人，第28回日本内視鏡外科学会，2015
32. 腹腔鏡下子宮体がん手術の普及に向けて，寺井義人，田中智人，古形祐平，芦原敬允，前田和也，藤原聡枝，田中良道，恒遠啓示，佐々木浩，大道正英，第58回日本婦人科腫瘍学会，2016
33. ガイドラインからみた安全担保，寺井義人，田中智人，田中良道，藤原聡枝，佐々木浩，恒遠啓示，大道正英，第56回日本産科婦人科内視鏡学会，2016
34. 子宮体癌におけるセンチネルリンパ節生検，田中智人，寺井義人，芦原敬允，前田和也，藤原聡枝，兪 史夏，田中良道，佐々木浩，恒遠啓示，大道正英，第54回日本癌治療学会，2016
35. 適応と限界を考慮した腹腔鏡下子宮体がん手術術式，寺井義人，田中智人，大道正英，第29回日本内視鏡外科学会，2016
36. 子宮内膜癌における選択的サイクリン依存性キナーゼ(CDK)4/6 阻害剤 palbociclib(PD-0332991)の有用性田中智人，寺井義人，丸岡 寛，前田和也，芦原敬允，兪 史夏，藤原聡枝，田中良道，佐々木浩，恒遠啓示，大道正英，第5回婦人科がんバイオマーカー研究会，2017
-

業 績 目 録

5. 学会発表（国内学会）

No. 48

（番号，演題名，発表者（共同発表者を含む），学会名，発行年の順に記入してください。）

-
37. 真価 ロボット支援腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術，寺井義人，第 57 回日本産科婦人科内視鏡学会，2017
38. 当院における腹腔鏡下子宮体癌手術の治療成績。藤原 聡枝，寺井義人，寺田信一，古形祐平，田中良道，田中智人，佐々木浩，恒遠啓示，大道正英。第 41 回日本産婦人科手術学会，2019
39. 当院での腹腔鏡下・ロボット支援下広汎子宮全摘術と開腹広汎子宮全摘術の比較検討。寺田信一，寺井義人，宮本瞬輔，丸岡寛，古形祐平，藤原聡枝，田中良道，田中智人，恒遠啓示，佐々木浩，大道正英、第 41 回日本産婦人科手術学会，2019
40. 当科におけるがん治療後トータルヘルスケアの取り組み ホルモン補充療法の更年期症状への効果 佐々木浩，石川渚，宮本瞬輔，中村奈津穂，丸岡 寛，穀内香奈，多賀紗也香，藤原聡枝，寺井義人，大道正英、第 71 回日本産科婦人科学会，2019
41. 妊娠を継続した悪性腫瘍合併妊娠の 3 症例、村山結美，大瀧瑠璃，田中サキ，大門篤史，布出実紗，佐野 匠，田中良道，藤田太輔，寺井義人，大道正英、第 71 回日本産科婦人科学会，2019
42. プレコンセプションから周産期管理したリウマチ合併妊娠について。藤田太輔，飯藤宰士，大瀧瑠璃，大門篤史，布出実紗，村山結美，永易洋子，佐野 匠，寺井義人，大道正英、第 71 回日本産科婦人科学会，2019
43. 帝王切開予定日の決定 TOLAC 症例の分娩週数の検討より、大門篤史，飯藤宰士，上田尚子，布出実紗，村山結美，永易洋子，佐野 匠，藤田太輔，寺井義人，大道正英、第 71 回日本産科婦人科学会，2019
44. 上皮性卵巣境界悪性腫瘍および卵巣癌 118 例における FDG-PET/CT の SUV max 値の検討，上田尚子，田中智人，大瀧瑠璃，寺田信一，丸岡 寛，藤原聡枝，田中良道，恒遠啓示，寺井義人，大道正英、第 71 回日本産科婦人科学会，2019
45. 当院での腹腔鏡下広汎子宮全摘出術と開腹広汎子宮全摘出術の排尿障害の検討、寺田信一，寺井義人，宮本瞬輔，古形祐平，藤原聡枝，田中良道，田中智人，恒遠啓示，佐々木浩，山田隆司，大道正英、第 71 回日本産科婦人科学会，2019
46. 当院における稀少部位子宮内膜症 10 例の検討、古形祐平，石川 渚，飯藤宰士，田中サキ，中村奈津穂，小西博巳，恒遠啓示，林 正美，寺井義人，大道正英、第 71 回日本産科婦人科学会，2019
47. 子宮内膜症関連卵巣癌の病態解明を目的とした遺伝子発現解析、中村奈津穂，宮本瞬輔，古形祐平，寺田信一，小西博巳，穀内香奈，多賀紗也香，林 正美，寺井義人，大道正英、第 71 回日本産科婦人科学会，2019
48. プラチナ感受性再発卵巣癌に対するベバシズマブの有用性、藤原聡枝，宮本瞬輔，丸岡寛，上田尚子，田中智人，田中良道，恒遠啓示，佐々木 浩，寺井義人，大道正英、第 71 回日本産科婦人科学会，2019
-

業 績 目 録

5. 学会発表（国内学会）

No. 49

（番号、演題名、発表者（共同発表者を含む）、学会名、発行年の順に記入してください。）

-
49. 子宮内膜癌・子宮内膜異型増殖症に対する MPA 療法の再投与について、田中良道、古形祐平、丸岡 寛、小西博巳、穀内香奈、田中智人、恒遠啓示、佐々木 浩、寺井義人、大道正英、第 71 回日本産科婦人科学会、2019
50. 子宮頸癌における 18F-FDG PET/CT の有用性、大瀧瑠璃、寺田信一、上田尚子、丸岡 寛、藤原聡枝、田中良道、田中智人、恒遠啓示、佐々木 浩、寺井義人、大道正英、第 71 回日本産科婦人科学会、2019
51. 当院で経験した腹膜原発癌肉腫の 2 例。中筋由紀子、鈴木嘉穂、長又哲史、安積麻帆、高橋良輔、松本培世、蝦名康彦、出口雅士、寺井義人、山田秀人。第 140 回近畿産科婦人科学会学術集会、2019
52. CPT-11/CDDP 療法が奏功した進行子宮頸部小細胞癌の 1 例、安積麻帆、鈴木嘉穂、出口雅史、松本培世、長又哲史、高橋良輔、中筋由紀子、蝦名康彦、寺井義人、山田秀人、第 140 回近畿産科婦人科学会学術集会、2019
53. 当院における子宮頸癌に対するベバシズマブの使用経験、長又哲史、清水真帆、高橋良輔、松本培世、村田友香、鈴木嘉穂、出口雅士、寺井義人、第 141 回近畿産科婦人科学会学術集会腫瘍研究部会、2019
54. トラベクテジンの長期投与が可能であった平滑筋肉腫の二例、長又哲史、蝦名康彦、安積麻帆、高橋良輔、松本培世、鈴木嘉穂、出口雅士、寺井義人、第 61 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会、2019
55. 子宮頸がんに対する放射線治療後不全骨折発症のリスクについての検討、松本培世、鈴木嘉穂、安積麻帆、中筋由紀子、清水真帆、高橋良輔、長又哲史、蝦名康彦、出口雅士、寺井義人、第 61 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会、2019 年
56. 卵巣癌・腹膜癌の術前化学療法時の診断において、腹腔鏡下生検と体腔液 Cell block 法の比較検討、高橋 良輔、鈴木 嘉穂、中筋 由紀子、安積 麻帆、長又 哲史、松本 培世、出口雅士、蝦名康彦、寺井義人、第 61 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会、2019
57. 妊孕性温存手術を施行した I 期の卵巣上皮性境界悪性腫瘍の予後に関する検討、安積麻帆、鈴木嘉穂、中筋由紀子、高橋良輔、松本培世、長又哲史、出口雅士、寺井義人、山田秀人、第 61 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会、2019
58. 卵巣癌初回治療における dose-dense TC 療法と TC+bevacizumab 併用療法の比較。鈴木嘉穂、中筋由紀子、安積麻帆、高橋良輔、長又哲史、松本培世、出口雅士、蝦名康彦、寺井義人、第 61 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会、2019
59. 当院における 65 歳以上の高齢者に対する腹腔鏡下手術の安全性についての検討、松本培世、長又哲史、安積麻帆、清水真帆、高橋良輔、鈴木嘉穂、寺井義人、第 59 回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会、2019
-

業 績 目 録

5. 学会発表（国内学会）

No. 50

（番号，演題名，発表者（共同発表者を含む），学会名，発行年の順に記入してください。）

-
- 6 0. 進行卵巣癌における腹腔鏡下生検術の有用性の検討，清水真帆，高橋良輔，長又哲史，松本培世，鈴木嘉穂，蝦名康彦，寺井義人，第 59 回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会，2019
- 6 1. 当院の子宮筋腫に対する全腹腔鏡下子宮全摘術の検討，高橋良輔，鈴木嘉穂，安積麻帆，清水真帆，長又哲史，松本培世，寺井義人，第 59 回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会，2019
- 6 2. 当院における子宮筋腫に対する腹腔鏡下子宮全摘術のリスク評価，鈴木嘉穂，寺井義人，第 32 回日本内視鏡外科学会，2019
- 6 3. 子宮体癌に対するロボット支援下手術の標準化を目指して，寺井義人，第 60 回日本産科婦人科内視鏡学会学術集会，2020
- 6 4. 腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清術の安全な普及を目指して．シンポジウム 4 寺井義人．第 63 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会，2021
- 6 5. 定型化された腹腔鏡術式はロボット支援下子宮悪性腫瘍手術でも有用か．シンポジウム 4「ロボット子宮体癌手術の進歩」山崎友維，寺井義人，第 61 回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会，2021
-

業 績 目 録

5. 学会発表（国内学会）No. 51
(番号, 演題名, 発表者（共同発表者を含む）, 学会名, 発行年の順に記入してください。)
-
- (ワークショップ)
1. 卵巣初期癌の治療法と予後についての検討, 寺井義人, 熊谷広治, 植木 健, 岡本吉明, 植田政嗣, 植木 實, 第 98 回近畿産婦人科学会 腫瘍研究部会, 1998
 2. 進行卵巣癌における Second Look Operation(SLO)の意義, 寺井義人, 植木 健, 清木康雄, 岡本吉明, 植田政嗣, 植木 實, 第 99 回近畿産婦人科学会 腫瘍研究部会, 1998
 3. 血管新生因子を分子標的とした婦人科癌の診断と治療, 寺井義人, 植田政嗣, 植木 實, 佐藤靖史, 第 19 回日本ヒト細胞学会, 2001
 4. 子宮頸癌細胞における thymidine phosphorylase の遺伝子発現と浸潤動態, 植田政嗣, 寺井義人, 植木 實, 第 10 回日本がん転移学会, 2001
 5. 当科における卵巣腫瘍合併妊娠の管理, 山口裕之, 寺井義人, 植木 健, 植田政嗣, 植木 實, 第 104 回近畿産科婦人科学会 腫瘍研究部会, 2001
 6. 婦人科癌細胞における dihydropyrimidine dehydrogenase の発現と遺伝子変異, 熊谷広治, 植田政嗣, 神田宏治, 植木 健, 寺井義人, 山口裕之, 植木 實, 第 30 回日本婦人科腫瘍学会, 2001
 7. 当科における子宮体癌術後療法の変遷とその成績, 植木 健, 神田宏治, 寺井義人, 熊谷広治, 植田政嗣, 植木 實, 第 31 回日本婦人科腫瘍学会, 2001
 8. 子宮頸癌細胞における VEGF family の遺伝子発現と浸潤動態, 寺井義人, 植田政嗣, 第 11 回日本がん転移学会, 2002
 9. 子宮内膜症合併不妊の卵巣顆粒膜細胞における VEGF mRNA 発現の検討, 山下能毅, 植田政嗣, 寺井義人, 後山尚久, 植木 實, 第 106 回近畿産科婦人科学会 内分泌・生殖研究部会, 2002
 10. 外陰基底細胞癌の 1 例, 明瀬大輔, 山口裕之, 寺井義人, 植木 健, 植田政嗣, 植木 實, 第 106 回近畿産科婦人科学会 内分泌・生殖研究部会, 2002
 11. 進行子宮頸部腺癌に対する動注化学療法, 植木 健, 山口裕之, 神田宏治, 寺井義人, 熊谷広治, 植田政嗣, 植木 實, 第 106 回近畿産科婦人科学会 腫瘍研究部会, 2002
 12. 婦人科癌の浸潤・転移とその制御, 植田政嗣, 寺井義人, 熊谷広治, 植木 健, 神田宏治, 山下光里, 山口裕之, 明瀬大輔, 洪 耀欽, 植木 實, 第 108 回近畿産科婦人科学会, 2003
 13. 子宮頸部悪性腺腫の診断について, 山口裕之, 植木 健, 明瀬大輔, 出馬晋二, 寺井義人, 植田政嗣, 神田隆善, 植木 實, 第 108 回近畿産科婦人科学会 腫瘍研究部会, 2003
 14. 卵巣癌における妊孕性温存術の適応と限界, 寺井義人, 植田政嗣, 山口裕之, 神田宏治, 西山浩司, 植木 健, 熊谷広治, 植木 實, 第 41 回日本癌治療学会, 2003
-

業 績 目 録

5. 学会発表（国内学会）

No. 52

（番号、演題名、発表者（共同発表者を含む）、学会名、発行年の順に記入してください。）

- 1 5. 当科における再発卵巣癌の治療の検討，明瀬大輔，寺井義人，平井隆次，山口裕之，植田政嗣，植木 實，第 109 回近畿産科婦人科学会 腫瘍研究部会，2003
 - 1 6. 難治性卵巣癌に対する取り組み：A phase I/II study of weekly Taxol ip+CBDCA iv therapy for optimal debulked Epithelial Ovarian Cancer，竹内 聡，宮本岳雄，左右田裕生，鈴木美奈子，山辺晋吾，寺井義人，植田政嗣，植木 實，濱名伸也，本山 寛，丸尾 猛，第 109 回近畿産科婦人科学会 腫瘍研究部会，2003
 - 1 7. 卵巣癌細胞における血管新生因子の遺伝子発現と浸潤 動態－Taxol による浸潤能抑制効果を含めた基礎的検討－，植田政嗣，寺井義人，第 13 回日本がん転移学会，2004
 - 1 8. 当科における子宮体部非上皮性悪性腫瘍の臨床的検討，西山浩司，寺井義人，山口裕之，神田宏治，金村昌徳，植田政嗣，植木 實，第 110 回近畿産科婦人科学会 周産期研究部会，2004
 - 1 9. 早期より他臓器に遠隔転移をきたした Paget's disease の 1 例，田中智人，安田勝行，池田 篤，寺井義人，亀谷英輝，植田政嗣，植木 實，熱田華子，幾井宣行，第 110 回近畿産科婦人科学会 周産期研究部会，2004
 - 2 0. UAE 後の感染に対し保存的に治療しえた 2 症例，莊園へキ子，山口裕之，寺井義人，植木 健，亀谷英輝，植田政嗣，有本 博，山本和宏，植木 實，第 110 回近畿産科婦人科学会 周産期研究部会，2004
 - 2 1. 子宮頸癌細胞における血管新生および浸潤・転移関連因子の遺伝子発現，植田政嗣，寺井義人，第 14 回日本がん転移学会，2005
 - 2 2. 子宮体癌術後、下肢浮腫出現に続き、17 日目発症した肺塞栓症の 1 例，中井 豪，神田宏治，植田政嗣，寺井義人，金村昌徳，山口裕之，植木 實，第 111 回近畿産科婦人科学会 腫瘍研究部会，2004
 - 2 3. 卵巣癌肝転移により胃食道逆流症をおこし頑固な咳嗽を発症した 1 例，野坂 桜，神田宏治，莊園へキ子，山口裕之，金村昌徳，寺井義人，植田政嗣，植木 實，第 111 回近畿産科婦人科学会 腫瘍研究部会，2004
 - 2 4. 卵巣癌における血管新生因子の遺伝子発現と浸潤動態，植田政嗣，寺井義人，植木 實，第 64 回日本癌学会，2005
 - 2 5. 子宮動脈塞栓術（UAE）後に妊娠に至った 1 例，山口裕之，植木 健，山本和宏，有本博，竹原幹雄，莊園へキ子，寺井義人，亀谷英輝，植田政嗣，植木 實，第 113 回近畿産科婦人科学会 腫瘍研究部会，2005
 - 2 6. 過多月経を主訴とする子宮筋腫合併症例に対する子宮鏡を併用したマイクロ波子宮内膜凝固変性法（MEA）の検討，莊園へキ子，山口裕之，中井 豪，竹原幹雄，金村昌徳，寺井義人，猪木千春，亀谷英輝，植田政嗣，植木 實，第 113 回近畿産科婦人科学会 腫瘍研究部会，2005
-

業 績 目 録

5. 学会発表（国内学会）

No. 53

（番号，演題名，発表者（共同発表者を含む），学会名，発行年の順に記入してください。）

27. 卵巣癌に対する Docetaxel + CBDCA(DJ)療法と weekly Paclitaxel + CBDCA(TJ)療法の Randomized Phase II study, 寺井義人, 井谷嘉男, 伊藤公彦, 山口裕之, 西山浩司, 植田政嗣, 植木 實, 豊田進司, 穎川友美, 木下由之, 野田恒夫, 新谷雅史, 鏑本浩志, 小笠原利忠, 秋山 稔, 安達 進, 細川健一, 第 43 回日本癌治療学会, 2005
28. 子宮鏡所見を重視した子宮内膜細胞診疑陽性所見の検討, 布引 治, 栗栖義賢, 辻 求, 熊谷広治, 野田 定, 植木 健, 寺井義人, 植田政嗣, 植木 實, 第 44 回日本臨床細胞学会, 2005
29. 初回治療後に再発した卵巣境界悪性腫瘍 2 例の臨床的検討, 田中良道, 寺井義人, 山口裕之, 西山浩司, 金村昌徳, 植田政嗣, 植木 實, 大道正英, 第 114 回近畿産科婦人科学会 腫瘍研究部会, 2006
30. 卵巣チョコレート嚢胞に対する保存手術 4 年後に卵巣癌が発生した 1 例, 恒遠啓示, 山下能毅, 笠松真弓, 明瀬大輔, 竹原幹雄, 寺井義人, 植田政嗣, 植木 實, 大道正英, 第 114 回近畿産科婦人科学会 内分泌・生殖合同研究部会, 2006
31. 当科における若年子宮頸部前癌病変についての後方視野的検討, 西山浩司, 金村昌徳, 田中良道, 山口裕之, 出馬晋二, 寺井義人, 大道正英, 第 115 回近畿産科婦人科学会 腫瘍研究部会, 2006
32. 当科における子宮内膜癌と子宮内膜異型増殖症に対するMPA療法の治療成績, 安田勝行, 猪木千春, 田中良道, 恒遠啓示, 佐々木浩, 西山浩司, 山口裕之, 竹原幹雄, 金村昌徳, 寺井義人, 大道正英, 第 116 回近畿産科婦人科学会 腫瘍研究部会, 2007
33. 大学における外来化学療法センターの設立と問題点, 寺井義人, 田中良道, 恒遠啓示, 佐々木浩, 安田勝彦, 竹原幹雄, 金村昌徳, 大道正英, 第 117 回近畿産科婦人科学会 腫瘍研究部会, 2007
34. 当科における再発卵巣癌の治療成績, 田中良道, 恒遠啓示, 佐々木浩, 竹原幹雄, 金村昌徳, 寺井義人, 大道正英, 第 118 回近畿産科婦人科学会 腫瘍研究部会, 2008
35. 婦人科悪性腫瘍にたいする深部静脈血栓症・肺血栓塞栓症のスクリーニング検査は必要か? 金村昌徳, 川口浩史, 丸岡理紗, 八田幸治, 佐野 匠, 中村路彦, 兪 史夏, 藤岡聡枝, 田中良道, 関島龍治, 恒遠啓示, 佐々木 浩, 田辺晃子, 寺井義人, 大道正英, 第 48 回日本婦人科腫瘍学会, 2010
36. 当科での骨盤神経温存広汎子宮全摘術の妥当性と urodynamics study による排尿機能の評価, 川口浩史, 恒遠啓示, 寺井義人, 丸岡 寛, 吉村真由美, 田吹邦雄, 古形祐平, 高井雅聡, 藤原聡枝, 兪 史夏, 田中良道, 関島龍治, 佐々木浩, 金村昌徳, 大道正英, 第 50 回日本婦人科腫瘍学会, 2011
37. 卵巣癌における E-cadherin, snail, slug の発現意義, 高井雅聡, 寺井義人, 川口浩史, 藤原聡枝, 兪 史夏, 田中良道, 佐々木浩, 恒遠啓示, 金村昌徳, 田辺晃子, 大道正英, 第 49 回日本癌治療学会, 2011
-

業 績 目 録

5. 学会発表（国内学会）

No. 54

（番号、演題名、発表者（共同発表者を含む）、学会名、発行年の順に記入してください。）

-
38. 性腺ホルモン供給源としての閉経後卵巣 ～閉経女性の健康に与える光と影～, 田辺晃子, 丸岡理紗, 渡辺綾子, 高井雅聡, 劉 昌恵, 芦原敬允, 田中智人, 寺井義人, 大道正英, 第 37 回日本産科婦人科栄養・代謝研究会, 2013
39. 子宮内膜症および卵巣嚢腫に対する各種細径腹腔鏡下手術の有用性, 斉藤奈津穂, 奥田喜代司, 山下能毅, 寺井義人, 第 26 回日本内視鏡外科学会, 2013
40. 子宮内膜症性嚢胞の内壁焼灼術は卵巣予備能の低下を回避できるか? 斉藤奈津穂, 奥田喜代司, 穀内香奈, 中村容子, 山下能毅, 寺井義人, 大道正英, 第 54 回日本産科婦人科内視鏡学会, 2014
41. シスプラチン内包 CD24 高分子ミセルの開発とマウス難治性卵巣癌モデルへの治療検討, 芦原敬允, 寺井義人, 前田和也, 小野賀大, 中村起代子, 兪 史夏, 田中智人, 林 正美, 田辺晃子, 金村昌徳, 大道正英, 第 67 回日本産科婦人科学会, 2015
42. 手術適応外とされる 28trisomy 症候群に合併した心室中隔欠損症に対する外科治療介入の臨床像, 岡本敦子, 藤田太輔, 林 篤史, 神吉一良, 鈴木裕介, 佐野 匠, 田中健太郎, 古形祐平, 大門篤史, 宮本瞬輔, 寺井義人, 大道正英, 第 67 回日本産科婦人科学会, 2015
43. 子宮体がん 早期例の腹腔鏡から進行例にかけての手術の実際, 寺井義人, 田中智人, 佐々木浩, 田中良道, 古形祐平, 藤原聡枝, 兪 史夏, 芦原敬允, 前田和也, 恒遠啓示, 金村昌徳, 大道正英, 第 57 回日本婦人科腫瘍学会, 2015
44. 子宮癌に対するセンチネルリンパ節生検, 田中智人, 寺井義人, 古形祐平, 前田和也, 芦原敬允, 藤原聡枝, 田中良道, 恒遠啓示, 佐々木浩, 兪 史夏, 金村昌徳, 山田隆司, 大道正英, 第 57 回日本婦人科腫瘍学会, 2015
45. 術前道中化学療法を施行した局所進行子宮頸癌に対する術後補助療法に関する検討, 藤原聡枝, 古形祐平, 芦原敬允, 兪 史夏, 田中良道, 田中智人, 佐々木浩, 恒遠啓示, 金村昌徳, 寺井義人, 大道正英, 第 57 回日本婦人科腫瘍学会, 2015
46. 予後不良な子宮体癌に関する組織型からの検討, 芦原敬允, 前田和也, 藤原聡枝, 田中良道, 田中智人, 恒遠啓示, 金村昌徳, 寺井義人, 大道正英, 第 53 回日本癌治療学会, 2015
47. 当院における ASC-H 判定症例の細胞学的症例, 棚田 論, 辻 求, 栗栖義賢, 石崎幸恵, 武田玲郁, 浦上真由美, 明石静香, 吉川純子, 出口千尋, 中山裕子, 山田隆司, 廣瀬善信, 寺井義人, 田路栄作, 竹中明美, 第 54 回日本臨床細胞学会, 2015
48. 子宮内膜癌における palbociclib(PD-0332991)の機能解析, 田中智人, 宮本瞬輔, 前田和也, 芦原敬允, 藤原聡枝, 田中良道, 佐々木浩, 恒遠啓示, 寺井義人, 大道正英, 第 68 回日本産科婦人科学会, 2016
49. 子宮体癌における腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清 多施設共同研究 (TOTOK study), 田中智人, 寺井義人, 大道正英, 林 茂徳, 青木大輔, 三木通保, 藤原 潔, 小林栄仁, 木村 正, 馬場 長, 松村謙臣, 第 56 回日本産科婦人科内視鏡学会, 2016
-

業 績 目 録

5. 学会発表（国内学会）No. 55
(番号, 演題名, 発表者（共同発表者を含む）, 学会名, 発行年の順に記入してください。)
50. 当院でベバシズマブを投与した再発卵巣癌、卵管癌、腹膜癌症例の安全性と有効性の検討, 藤原聡枝, 芦原敬允, 前田和也, 兪 史夏, 田中良道, 田中智人, 佐々木浩, 恒遠啓示, 寺井義人, 大道正英, 第 54 回日本癌治療学会, 2016
51. Laparoscopic Nerve Sparing Radical Hysterectomy for Cervical Cancer, 田中智人, 寺井義人, 恒遠啓示, 大道正英, 第 29 回日本内視鏡外科学会, 2016
52. AMH からみた子宮内膜症性嚢胞内壁焼灼術の有用性の検討, 中村奈津穂, 奥田喜代司, 穀内香奈, 小西博巳, 中村真由美, 劉 昌恵, 林 正美, 山下能毅, 寺井義人, 大道正英, 第 38 回日本エンドメトリオーシス学会, 2017
53. ロボット支援下広汎子宮全摘出術, 寺井義人, 田中智人, 藤原聡枝, 橋田宗祐, 芦原敬允, 大道正英, 近畿内視鏡外科研究会, 2017
54. 局所進行子宮頸癌に対する術前動注化学療法, 田中智人, 寺井義人, 丸岡 寛, 橋田宗祐, 寺田信一, 古形祐平, 芦原敬允, 前田和也, 兪 史夏, 藤原聡枝, 田中良道, 恒遠啓示, 佐々木浩, 大道正英, 第 55 回日本癌治療学会, 2017
55. 腹腔広汎子宮全摘術の現状と可能性、ワークショップ 9、寺井義人、第 34 回日本内視鏡学会総会、2021
56. ロボット体がんの鏡視下手術:本邦での標準化を目指して 先進医療下子宮体癌に対する腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清術登録結果の検討 ワorkshop 11 鈴木 嘉穂, 鷺尾 佳一, 清水 真帆, 長又 哲史, 山崎 友維, 村田 友香, 寺井義人、第 33 回日本内視鏡外科学会総会、2021
57. 産婦人科領域の新規保険収載に向けた取り組み ―腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清術― 婦人科腫瘍委員会・社会保険員会合同企画、寺井義人、第 73 回日本産科婦人科学会学会術講演会、新潟、2021
58. 腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清術の安全な普及を目指して 寺井義人、第 63 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会、2021
59. 子宮体がん治療ガイドライン 2023 年版コンセンサスミーティング ガイドライン改訂のポイント (第 2 章 初回治療, 第 7 章 肉腫の治療), 寺井義人, 第 64 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2022
60. 子宮体癌における鏡視下手術の現状, 寺井義人, 第 60 回日本癌治療学会学術集会, 2022
61. 卵巣癌における内視鏡手術の現状と今後, 寺井義人, 第 65 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2023
-

業 績 目 録

5. 学会発表（国内学会）

No. 56

（番号，演題名，発表者（共同発表者を含む），学会名，発行年の順に記入してください。）

（委員会企画）

1. 第二部 クリニカルクエスションの解決に向けて 7) 本邦における子宮体癌の低侵襲手術（MS）の実態調査報告，吉田 浩，三上幹男，町田弘子，松尾高司，寺井義人，藤井多久磨，万代昌紀，小林裕明，永瀬 智，第 75 回日本産科婦人科学会学術講演会，2023
2. 婦人科腫瘍委員会企画 新展開が予想される婦人科がん診療を先取りする，6) 低侵襲手術の新展開，寺井義人，第 76 回日本産科婦人科学会学術講演会，2024

（パネルディスカッション）

1. 腹腔鏡下婦人科悪性腫瘍手術における安全な視野展開と操作のコツ，寺井義人，田中智人，大道正英，第 30 回日本内視鏡外科学会，2017

（公募研究報告）

1. 婦人科癌の浸潤移行における EMT（Epithelial Mesenchymal Transition）の意義と EMT 制御をターゲットとした新規治療の基礎的研究，寺井義人，第 53 回日本婦人科腫瘍学会，2012

（キーノートスピーカー）

1. 妊娠中の卵巣腫瘍，植田政嗣，亀谷英輝，熊谷広治，池田 篤，寺井義人，山下能毅，植木 實，杉本 修，第 90 回近畿産科婦人科学会 周産期研究部会，1994
2. 卵巣腫瘍合併妊娠に対する腹腔鏡下手術，寺井義人，林 篤史，藤原聡枝，兪 史夏，田中智人，田中良道，恒遠啓示，佐々木浩，金村昌徳，山下能毅，大道正英，第 36 回日本産婦人科手術学会，2013

業 績 目 録

5. 学会発表（国内学会）No. 57
（番号，演題名，発表者（共同発表者を含む），学会名，発行年の順に記入してください。）
（ランチョンセミナー）
1. 卵巣癌の最近の知見－腹腔内投与を中心に－，寺井義人，第 41 回日本婦人科腫瘍学会，2006
 2. 子宮頸がんはワクチンで予防できる時代へ，寺井義人，第 4 回日本医療マネジメント学会大阪支部 学術集会，2011
 3. 子宮頸がんは検診とワクチンで予防できる時代へ，寺井義人，第 33 回日本病院薬剤師会近畿学術大会，2012
 4. 子宮体がん根治術～腹腔鏡下手術導入のステップと手技の実際，大道正英，寺井義人，第 65 回日本産科婦人科学会，2013，札幌
 5. 婦人科領域における腹腔鏡下手術の現況，寺井義人，第 135 回東北連合産科婦人科学会，2013
 6. 腹腔鏡下悪性腫瘍手術の最前線－手術をやさしくする ENSEAL G2 の使い方－，寺井義人，第 54 回日本産科婦人科内視鏡学会，2014
 7. Gynecology Laparoscopic Surgery～根治と低侵襲は両立することが可能なのか？ 寺井義人，第 55 回日本産科婦人科内視鏡学会，2015
 8. 4K で実現する、より安全で精緻な婦人科腹腔鏡下手術～良性疾患から悪性疾患まで～，寺井義人，第 68 回日本産科婦人科学会，2016
 9. 蛍光 ICG 法を用いた婦人科悪性腫瘍手術，寺井義人，第 58 回日本婦人科腫瘍学会，2016
 10. 産婦人科腫瘍手術における低侵襲手術の未来開腹，ラパロ，ダビンチの適応と可能性，寺井義人，田中智人，田中良道，古形祐平，藤原聡枝，兪 史夏，芦原敬允，前田和也，恒遠啓示，佐々木浩，大道正英，第 69 回日本産科婦人科学会学術講演会，2017
 11. 腹腔鏡下子宮体癌手術の標準化と発展～大学における教育の面から～，寺井義人，第 59 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会，2017
 12. 腹腔鏡下婦人科悪性腫瘍におけるアトスプレーの有用性，寺井義人，第 70 回日本産科婦人科学会学術講演会，2018
 13. ICG によるセンチネルリンパ節マッピングと婦人科悪性腫瘍手術への応用。寺井義人，第 59 回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会、2019
 14. 婦人科腫瘍における鏡視下手術～腹腔鏡手術からロボット手術～，寺井義人，第 42 回日本産科婦人科手術学会、第 8 回日本婦人科ロボット手術学会、2020
-

業 績 目 録

5. 学会発表（国内学会）No. 58
(番号, 演題名, 発表者（共同発表者を含む）, 学会名, 発行年の順に記入してください。)

- 1 5. 婦人科悪性腫瘍におけるロボット手術の現在地、寺井義人, 第 9 回日本婦人科ロボット手術学会共催セミナー 4, 島根, 2021
- 1 6. 婦人科腫瘍における鏡視下手術ー腹腔鏡手術からロボット手術へー 寺井義人, 第 149 回東北連合産婦人科学会, 2021
- 1 7. 国産手術支援ロボット hinotori™ 婦人科領域拡大への期待、寺井義人, 第 74 回日本産科婦人科学会学術講演会, 2022
- 1 8. 国産手術支援ロボット hinotori™ 臨床に向けた取り組み, 寺井義人, 第 62 回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 2022
- 1 9. hinotori™ 骨盤領域への第一歩 婦人科領域における臨床応用, 寺井義人, 第 35 回日本内視鏡外科学会総会, 2022
- 2 0. 婦人科領域における hinotori™ の幕開け, 寺井義人, 第 11 回日本婦人科ロボット手術学会, 2023

(モーニングセミナー)

1. 子宮頸がんはワクチンで予防できる時代へ寺井義人, 第 12 回日本婦人科がん分子標的研究会学術集会, 2013

(イブニングセミナー)

1. 婦人科悪性腫瘍における腹腔鏡下手術, 寺井義人, 第 56 回日本婦人科腫瘍学会, 2014
 2. 婦人科腫瘍手術におけるパラダイムシフト、寺井義人, ぐんま産婦人科周術期セミナー、2021
 3. 婦人科悪性腫瘍における鏡視下手術の現在地、寺井義人, 第 2 回次世代婦人科 MIS 研究会、2021
 4. 婦人科腫瘍における鏡視下手術～貧血からロボット手術まで～、寺井義人, 第 348 回筑後ブロック産婦人科医会研修会, 2021
 5. 婦人科における安全な鏡視下手術を目指して、寺井義人, 第 602 回松山産婦人科医会 10 月例会, 2021
 6. 子宮頸がんに対する鏡視下手術、寺井義人, がん医療 WEB セミナー (WOW!) , 2021
 7. 婦人科がん領域におけるロボット手術, 寺井義人, 第 60 回日本癌治療学会学術集会, 2022
-

業 績 目 録

6. 学会発表（国際会議）

No. 59

（番号，演題名，発表者（共同発表者を含む），学会名，発行年の順に記入してください。）

（招請講演）

1. Developmental chemotherapy for Gynecological cancer in Japan, Terai Y, 19th The International Seminar of Gynecologic Oncology, 2003
2. Laparoscopic surgery for endometrial cancer in Japan, Terai Y, 28th European Society for Gynaecological endoscopy, 2019

（シンポジウム）

1. Laparoscopic surgery for endometrial cancer in Japan, Terai Y, The 5th Biennial Meeting of ASGO 2017, 2017
2. Standard treatment for MIS for endometrial cancer in Japan International Symposium 6 Standard Treatment for MIS for Endometrial cancer, Terai Y, The 21st APAGE Annual Congress 2021, 2021

（ワークショップ）

1. Laparoscopic nerve-sparing radical hysterectomy in early stage cervical cancer, Terai Y, Ohmichi M, 18th APAGE Annual Congress 2017, 2017
2. Surgical Film Festival: Cervical and Endometrial Cancer, Para-aortic transperitoneal lymphadenectomy, Terai Y, IGCS 2021 Annual Global Meeting, 2021

（Speakers）

1. Total laparoscopic modified radical hysterectomy in clinical stage I endometrial cancer, Terai Y, 6th AAGL International Congress on Minimally Invasive Gynecology in conjunction with 12th APAGE Annual Congress hosted by JSGOE, 2011
2. Pelvic lymphadenectomy for endometrial cancer, Terai Y, The 3rd Biennial Meeting of ASGO, 2013

業 績 目 録

- | | |
|---|---|
| 6. 学会発表 (国際会議) | No. 60 |
| (番号, 演題名, 発表者 (共同発表者を含む), 学会名, 発行年の順に記入してください。) | |
| <hr/> | |
| (一般演題) | |
| 1. | Tumor angiogenesis in cervical carcinoma, Ueda M, <u>Terai Y</u> , 7th Taiwan Joint Cancer Conference, 2002 |
| 2. | Clinicopathological characteristics of sarcoma of the uterus: retrospective study of treatment in the last decade, Takeuchi S, Adachi S, Ogasawara Y, Itani S, Toyoda H, <u>Terai Y</u> , Morita H, Fukunishi A, Suzuki J, Yano H, Fujita T, Kim K, 21th American Society of Clinical Oncology, 2002 |
| 3. | Glutathione S-transferase GSTM1,GSTT1 and p53 codon 72 polymorphisms in human tumor cells, Ueda M, Hung YC, <u>Terai Y</u> , Yamaguchi H, Akise D, Ueki M, 21th Human Cell Society, 2003 |
| 4. | Clinicopathological study of treatment in patients with uterine sarcoma, <u>Terai Y</u> , Takeuchi S, Kita T, Kigawa J, Tabata T, Ogasawara T, Sakata M, Itoh K, Sagae S, Sugiyama T, 10th ECCO, 2003 |
| 5. | Tumor angiogenesis and molecular target therapy in gynecological cancer, Ueda M, <u>Terai Y</u> , Ueki M, 22th Human Cell Society, 2004 |
| 6. | Somatic mutation in the EGFR gene in ovarian carcinoma detected by SSCP and direct sequencing, <u>Terai Y</u> , Sugita M, Ueda M, Ueki M, Bemis L, Haney J, Franklin W.A, 42th American Society of Clinical Oncology, 2006 |
| 7. | Analysis of EGFR Gene Mutation and Aberrant Phosphorylation of ERK and Akt In Ovarian Cancer, Tanaka Y, Tanabe A, Sasaki H, Ohmichi M, Kanemura M, <u>Terai Y</u> , 58th ACOG, 2010 |
| 8. | Acquisition of skills to ensure safe, sure, and smooth laparoscopic surgery for endometoriosis, Kumagai K, Yamashita Y, <u>Terai Y</u> , Okuda K, Ohmichi M, 6 th AAGL International Congress on Minimally Invasive Gynecology in conjunction with 12 th APAGE Annual Congress hosted by JSGOE, 2011 |
| 9. | Minilaparoscopic surgery for patients with endometriosis, Okuda K, Tsuneto S, Nakamura Y, Hayashi A, Hayashi M, Yoshida Y, Yamashita Y, <u>Terai Y</u> , Ohmichi M, 6 th AAGL International Congress on Minimally Invasive Gynecology in conjunction with 12 th APAGE Annual Congress hosted by JSGOE, 2011 |
| 10. | Prognostic impact of EMT (Epithelia-Mesenchymal-Transition) related protein expression in endometrial cancer, Tanaka Y, <u>Terai Y</u> , Kawaguchi H, Takai M, Fujiwara S, Yu S, Tsunetoh S, Sasaki H, Kanemura M, Tanabe A, and Ohmichi M, AACR Annual Meeting, 2012 |
-

業 績 目 録

6. 学会発表（国際会議） No. 61
(番号, 演題名, 発表者（共同発表者を含む）, 学会名, 発行年の順に記入してください。)
-
- 1 1. Elevated Serum Estradiol Level of Ovarian Vein in Postmenopausal Patient with Endometrial Cancer of Type1, Tanabe A, Ashihara K, Tanaka T, Maruoka R, Kanemura M, Terai Y, Ohmichi M, The 5th APMF, 2013
- 1 2. Epithelial-mesenchymal-transition (EMT) in endometrial cancer, Tanaka Y, Terai Y, Ashihara K, Maeda K, Kawaguchi H, Yoo M, Nakamura K, Takai, Fujiwara S, Tsunetoh S, Sasaki H, Kanemura M, Tanabe A, Ohmichi M, The 3rd Biennial Meeting of ASGO, 2013
- 1 3. Neoadjuvant intraarterial chemotherapy using an original fourlumen double-balloon catheter for locally advanced uterine cervical cancer, Tanaka T, Terai Y, Ashihara K, Maeda K, Yoo M, Kawaguchi H, Nakamura M, Takai M, Fujiwara S, Tanaka Y, Tsunetoh S, Sasaki H, Kanemura M, Ohmichi M, The 3rd Biennial Meeting of ASGO, 2013